はじめに

「主語がちゃんと書いてないから、どんどんわけわかんなくなる」↓「だから古文なんかキライ」。そう思ってしまう前に、こう考えてみたことはないですか？
「どうして昔の人たちは、主語が書いていない文章を見て、ちゃんと理解できていたのだろう？」
そうです、昔の人たちは無意識でしょうが、「何か」に注目して読んでいるのです。その「何か」を知れば、現代人の私たちだって、昔の人たちと同じように古文が読める！ということですよ。
本講座では、その「何か」＝「読解のルール」を中心に解説していき、さらに「古文常識」や「作品常識」などにも触れていきます。

実際の入試問題から、様々なジャンルの文章を選んで作成しており、もちろん近世の作品にも取り組みます。「主語把握方法」、「会話文中の主語判断法」などの「読解のルール」を掴んで、昔の人たちがどんな所に目をつけて読んでいたのか、辞書なしで読んでいたその時代の人たちの世界を、全十回で体感してください！

なお、「文法」はできているものとして授業を行います。「文法が苦手だ」という人は、先に「古文～文法編～」の授業を受講してから、この講座を受講することをオススメします。一見、遠回りのように思うかもしれませんが、文法をきっちりやるほうが、読解する上で結局近道となりますヨ。

それでは、初見の文章を自力で読めるように、一緒にやっていきましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

各講の動画を見る前に、必ず該当の講の予習をしてください。ノートに本文を写すとか、そういう作業は一切不要です。テキストに直接書き込んで大丈夫なので、15～20分くらいで、辞書などは使わずに自力で解きましょう。それさえ守ってくれたら、**第一講**はどんなやり方でもかまいませんので、自分なりの解き方でまずやってみてください。初めてだから、まったくわからなくても、「なんとなく」でもかまいません。なにか解答を選んでみてください。第二講以降は前回までに学習したことを踏まえて、予習をしましょう。第一講の時にはとりあえずやってみたという人も、回数を重ねる度に、どんどん自力で自信をもって解けるようになっていくはずですヨ！

予習が終われば、なるべく時間を空けずに該当講の動画を見てください。時間が経ってしまうと、せっかく予習をしたのに、どんな話だったか、どうしてその解答を選んだのか忘れてしまうので、覚えている間に見ることが重要です。あらかじめ板書している本文に、書き込みをしながら授業を進めていきます。私が黒板に書いていくことを、みなさんもテキストの本文に同じように（色は一色でも何色でも可）どんどん書き込んでください。こちらも回数を重ねると、予習の段階で、自分で先に本文中に必要な印や記号がどんどん付けられるようになるはずです。そうなれば、自分が予習の段階で書いたものと、私が書いているものが同じかどうかという目線で動画を見るようにしてください。

講義を見終えたら、復習を必ずしましょう。「復習＝問題を解きなおす」のではなく、
①講義の中でお伝えした「読解のルール」（「古文常識」「作品常識」を含む）を覚え込むこと、
②本文に付けた印や記号が、どういう根拠で付けたものかを再確認すること、
③各講の解答に掲載してある〔重要単語〕（特に太字）を覚えること、
の３点を重点的にしてください。そのうえで、間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰していきましょう。文法の講義同様、復習が終われば後ろにある「復習問題」も解いてくださいネ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　『大和物語』（歌物語）……… p. 4
第二講　『無名草子』（物語評論）……… p. 10
第三講　『宇治拾遺物語』（説話）……… p. 16
第四講　『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）……… p. 22
第五講　『発心集』（仏教説話）……… p. 28
第六講　『曾我物語』（軍記物語）……… p. 34
第七講　『大鏡』（歴史物語）……… p. 41
第八講　『源氏物語』（作り物語）……… p. 48
第九講　『正徹物語』（歌論書）……… p. 54
第十講　『本朝桜陰比事』（近世小説）……… p. 62

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　『大和物語』（歌物語）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

帝、狩いとかしこく好みたまひけり。[1]陸奥、磐手の郡より奉れる御鷹、世になくかしこかりければ、[2]になうおぼして御手鷹にしたまひけり。名をば磐手となむつけたまへり［　　］。それを、[3]かの道に心ありて、あづかり仕うまつりける大納言にあづけたまへりける。夜昼、これをあづかりて、とりかひたまふほどに、いかがしたまひけむ、そらしたまひてけり。心ぎもをまどはしてもとむるに、さらにえ見いでず。山々に人をやりつつもとめさすれど、さらになし。[4]みづからも深き山に入りて、まどひ歩きたまへどかひもなし。[5]このことを奏せで、しばしもあるべけれど、二三日にあげず御覧ぜぬ日なし。いかがせむとて、内にまゐりて、御鷹のうせたるよし奏したまふ時に、帝、[6]ものものたまはせず。聞しめしつけぬにやあらむとて、また奏したまふに、[7]おもてをのみまもらせたまうて、ものものたまはず。たいだいしとおぼしたるなりけりと、われにもあらぬ心地して、かしこまりていますかりて、「この御鷹の、もとむるに、侍らぬことを、いかさまにかしはべらむ。などかおほせごともたまはぬ」と奏したまふ時に、帝、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

8 <u>いはで思ふぞいふにまされる</u>

とのたまひけり。かくのみのたまはせて、こと事（ごと）ものたまはざりけり。御心にいとふかひなく、惜（を）しくおぼさるるになむありける。これをなむ、世の中の人、本（もと）をばとかくつけける。もとはかくのみなむありける。

（『大和物語』）

問一　傍線部１「陸奥」の読みは何か。次の①～⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　りくのおく　②　りくおう　③　りくおく　④　りくぜん　⑤　みちのく

問二　傍線部２「になうおぼして」について、次のア・イの設問に答えよ。

ア　「おぼし」たのは誰か。次の①～⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　磐手の郡の人　②　鷹を探した人　③　大納言　④　作者　⑤　帝

イ　「おぼし」た内容について、次の①～⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　自分の肩にとまらせたい　②　どうしても差し上げたい　③　気持ちが中途半端だ

④　この上もなく大事　⑤　責任重大だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　空欄には次のどの活用語が入るか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　けら　②　けり　③　ける　④　けれ　⑤　けよ

問四　傍線部３「かの道」とは、どのような道か。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　葬送の儀礼　②　管弦の遊び　③　鷹の調練　④　狩猟　⑤　和歌

問五　傍線部４「みづから」とは誰をさすか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　磐手の郡の人　②　使いの者　③　大納言
④　作者　⑤　帝

問六　傍線部５「このこと」とはどのようなことか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　鷹を逃がしてしまったこと
②　鷹をあずかっていること
③　音楽の趣味があること
④　深い山で迷ったこと
⑤　山に人をやったこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部６「ものものたまはせず」とあるが、どうしてか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　言わないでもすべてわかっていたから
②　鷹がいなくなって落胆したから
③　鷹が死んでしまって悲しいから
④　言い訳を聞きたくなかったから
⑤　山歩きで疲れてしまったから

問八　傍線部７「おもてをのみまもらせたまう」の主語は誰か。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　磐手の郡の人　②　鷹を探した人　③　大納言　④　作者　⑤　帝

問九　傍線部８「いはで思ふぞいふにまされる」は、和歌としては欠如した部分がある。次の①〜⑤は、その欠如した部分についで言ったものである。次のうちから適当でないものを一つ選べ。

①　初句と二句と三句　②　和歌の下の句　③　和歌の上句　④　「本（もと）」　⑤　五七五

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　本文について述べた次の①～⑤について、最も内容にふさわしいものを一つ選べ。

① 帝の心について後の人があれこれと噂（うわさ）するのは、帝が何も述べなかったからである。
② 帝と家臣との心の交流を描いたこの作品は、ハッピーエンドで終わる。
③ 帝は、言わないで思っているのは、言うに勝っていると考えている。
④ 帝は、鷹をかわいがりすぎていたので、臣下をひどく叱責（しっせき）した。
⑤ 帝は、鷹を愛するあまりに、深い山奥を探し求めた。

問十一　『大和物語』と同じような平安時代の歌物語はどれか。次の①～⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

① 十六夜日記　② 伊勢物語　③ 平家物語　④ 今昔物語　⑤ 古事記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　『大和物語』（歌物語）

①　「陸奥」の読みは何か。次の中から最適なものを一つ選べ。

ア　りくのおく　　イ　みちのく　　ウ　りくおく　　エ　りくぜん　　オ　りくおう

②　平安時代の歌物語を次の中から全て選び、成立順で答えよ。

ア　平中物語　　イ　伊勢物語　　ウ　平家物語　　エ　平治物語　　オ　大和物語

③　次の中から仲間外れのものを一つ選べ。

ア　初句と二句と三句　　イ　末　　ウ　和歌の上の句　　エ　本　　オ　五七五

④　「になし」の意味を次の中から選べ。

ア　どうしても　　イ　中途半端だ　　ウ　他に比べる物がない　　エ　荷をかつぐ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講『無名草子』（物語評論）

次の文章は、老尼がある邸に泊まった折、その家の女房たちの話し合うのを聞いて記したとされる『無名草子』の一節です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

「（前略）①繰り言のやうにははべれど、尽きもせずうらやましくめでたくはべるは、大斎院より上東門院へ、『つれづれ慰みぬべき物語やさぶらふ』と尋ね参らせさせたまへりけるに、紫式部を召して、『何をか参らすべき』と②おほせられければ、『③めづらしきものは何かはべるべき。新しく作りて参らせたまへかし』と申しければ、『作れ』とおほせられけるを、うけたまはりて、『［A］』を作りたりけるとこそ、いみじくめでたく［B］」と言ふ人はべれば、また、「いまだ宮仕へもせで里にはべりける折、かかるもの作り出でたりけるによりて、召し出でられて、それゆゑ紫式部といふ名はつけたり、とも申すは、いづれかまことにてはべらむ。

その人の日記といふものはべりしにも、『参りけるはじめばかり、恥づかしうも、心にくくも、また添ひ苦しうもあらむずらむと、おのおの④思へりけるほどに、いと思はずに⑤ほけづき、かたほにて、一文字をだに引かぬさまなりければ、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

かく思はず、と友達ども思はる』などこそ見えてはべれ。

君の御ありさまなどをば、いみじくめでたく⑥思ひきこえながら、つゆばかりも、かけかけしく慣らし顔に聞こえ出でぬほどもいみじく、また、皇太后宮の御事を、限りなくめでたく聞こゆるにつけても、愛敬づき、なつかしくさぶらひけるほどのことも、君の御ありさまもなつかしくいみじくおはしましし、など聞こえあらはしたるも、⑦心に似ぬ体にてあめる。かつはまた、⑧御心柄なるべし。」など言へば、（以下略）

注

大斎院…選子内親王

上東門院・皇太后宮…ともに彰子のこと

君…藤原道長

問一　[A]に入れるべき作品として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　発心集　　イ　枕草子　　ウ　狭衣物語　　エ　源氏物語　　オ　紫式部日記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　B に入れるのに最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　はべらず　イ　はべら　ウ　はべり　エ　はべる　オ　はべれ

問三　傍線部①「繰り言」とあるが、ここでの意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　恨みごとを言うこと　イ　ぐちを言うこと
ウ　同じことを繰り返して言うこと　エ　ふと思い出して言うこと
オ　過去をふりかえって言うこと

問四　傍線部②「おほせられければ」の主語として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　大斎院　イ　上東門院　ウ　紫式部　エ　友達ども　オ　君

問五　傍線部③「めづらしきものは何かはべるべき」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　目新しいものが何かありますか　イ　すばらしいものがどうしてここにありましょうか
ウ　目新しいものは何もございません　エ　すばらしいものとは何でしょうか
オ　目新しいものはどんな物にいたしましょうか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部④「思へりける」の主語として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　大斎院　　イ　上東門院　　ウ　紫式部　　エ　友達ども　　オ　君

問七　傍線部⑤「ほけづき、かたほにて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　ぼんやりしていて、未熟で　　イ　のんびりしていて、周りも気にかけない様子で

ウ　どきどきしていて、脇ばかりみて　　エ　落ち着かなくて、うろうろして

オ　遠慮がちにして、脇の方にいて

問八　傍線部⑥「思ひきこえながら」の主語として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　大斎院　　イ　上東門院　　ウ　紫式部　　エ　友達ども　　オ　君

問九　傍線部⑦「心に似ぬ体」のここでの意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　皇太后宮や君の性格には似つかわしくないこと

イ　紫式部の皇太后宮への思いとは一致しない有様

ウ　紫式部の心中に異ならない言葉

エ　紫式部の性格には似つかわしくない様子

オ　紫式部の性格には皇太后様や君の有様は似つかわしくない様子

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　傍線部⑧「御心柄」の説明として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選びなさい。

ア　紫式部の本心　　イ　皇太后宮と君の本心
ウ　皇太后宮と君の性格　　エ　紫式部の性格
オ　大斎院の本心

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　『無名草子』（物語評論）

①　『発心集』の作者を次の中から選べ。

ア　清少納言　　イ　吉田兼好　　ウ　紫式部　　エ　西行　　オ　鴨長明

②　「かたほ」の反対語を次の中から選べ。

ア　まほ　　イ　せほ　　ウ　いくほ　　エ　かたもひ　　オ　かたは

③　紫式部は誰に仕えた女房か。次の中から最も適当なものを選べ。

ア　定子　　イ　長子　　ウ　詮子　　エ　彰子　　オ　大斎院

④　定子の父親は誰か。次の中から最も適当なものを選べ。

ア　道長　　イ　道隆　　ウ　道綱　　エ　道兼　　オ　兼家

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講『宇治拾遺物語』（説話）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

昔、博打(ばくち)[x]の子の年若きが、[1]目鼻一所に取り寄せたるやうにて、世の人にも似ぬありけり。二人の親、これは、[2]いかにして世にあらせんずると思ひてありけるところに、長者の家に[3]かしづく女(むすめ)のありけるが、顔よからん聟(むこ)取らんと、母のもとめけるを伝へ聞きて、「天の下の顔よしといふ人、聟にならんとのたまふ」といひければ、長者、悦(よろこび)て、「聟に取らん」とて、日をとりて契(ちぎり)てけり。その夜になりて、装束など人に借りて、月は明(あか)かりけれど、顔みえぬやうにもてなして、博打ども集まりてありければ、[4]人々しくおぼえて、心にくく思ふ。

さて、夜々行くに、昼ゐるべきほどになりぬ。いかがせんと思ひめぐらして、博打一人[a]、長者の家の天井に上りて、二人寝たる上の天井を、ひしひしと踏みならして、いかめしく恐ろしげなる声にて、「天の下の顔よし[b]」とよぶ。家のうちのものども、いかなる事ぞと聞きまどふ。聟[c]、いみじくおぢて、「おのれをこそ、世の人、天の下の顔よしといふと聞け。いかなることとならん」といふに、三度までよべば、いらへつ。「これはいかにいらへつるぞ」といへば、「心にもあらで、い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

らへつるなり」といふ。[d]鬼のいふやう、「この家の女は、わが領じて三年になりぬるを、汝、いかにおもひて、かくは通ふぞ」といふ。「さる御事とも知らで、通ひ候ひつるなり。ただ御助け候へ」といへば、鬼、「いといとにくき事なり。一言(こと)して帰らん。汝、命とかたちといづれか惜しき」といふ。聟、「いかがいらふべき」といふに、[e]しうと、しうとめ、「[5]何ぞの御かたちぞ。命だにおはせば、『たゞかたちを』とのたまへ」といへば、教(をし)へのごとくいふに、鬼、「さらば、吸(す)ふ吸ふ」といふ時に、聟、顔をかかへて、「あらあら」といひて、ふしまろぶ。鬼はあよび帰りぬ。

さて「顔はいかが成りたる。見ん」とて、紙燭(しそく)をさして、人々見れば、目鼻ひとつ所にとりすゑたるやうなり。聟は泣きて、「ただ、命とこそ申すべかりけれ。かゝるかたちにて、世の中にありては、なにかせん。かからざりつるさきに、顔を一たび見え奉らで、大かたは、かくおそろしき物に領ぜられたりける所に参りける、[6]過(あやまち)なり」とかこちければ、しうと、いとほしと思ひて、「このかはりには、我がもちたる宝を奉らん」といひて、めでたくかしづきければ、うれしくてぞありける。「所の悪(あ)しきか」とて、[7]別によき家を造りてすませければ、いみじくてぞありける。

（『宇治拾遺物語』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈注〉

昼ゐるべきほどになりぬ―この当時の結婚の風習では、結婚が決まると、三晩続けて夫が妻のもとに通い、正式の夫として認められ、披露されたのち、昼も滞在することが許された。

問一　傍線部１「目鼻一所に取り寄せたるやう」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　目も鼻もひとところに集まったような

b　目も鼻もどこかから寄せ集めたように立派な

c　目もとがくっきりし、鼻筋が通っている

d　目や鼻が同じようなかたちをしている

問二　傍線部２「いかにして世にあらせんずる」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　どうして生きていこうか

b　どのようにして人なみの人生を送らせようか

c　どのように人なみの世渡りをしていこうか

d　なんとかしてこの世にいられるようにしてやりたい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部３「かしづく」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ａ　大切に仕えている
ｂ　大切に育てている
ｃ　妻として従っている
ｄ　下女として使っている

問四　傍線部４「人々しくおぼえて、心にくく思ふ」とあるのはなぜか。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ａ　博打打ち仲間がたくさん集まっているのが、従者のように見えたから。
ｂ　新しく迎えた聟を一目見ようとたくさんの人が集まってきたから。
ｃ　たくさんの従者を引き連れた立派な身分の人間に思われたから。
ｄ　月明かりで顔を隠しているしぐさが風流人のように見えたから。

問五　傍線部５「何ぞの御かたちぞ」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ａ　なんという顔をしているのですか。
ｂ　顔かたちなど問題ではありません。
ｃ　どういう姿になるのがいいでしょうか。
ｄ　どんな姿をしているのですか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部６の「過（あやまち）」の具体的内容の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ａ　顔よりも命が大事だと返事したこと。
ｂ　鬼が出るような家に聟に来たこと。
ｃ　鬼に襲われる前に、顔を見せていなかったこと。
ｄ　「天の下の顔よし」の聟でなくなったこと。

問七　傍線部７「別によき家を造りてすませければ」の理由として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ａ　鬼が出るような場所はたたりがあるから。
ｂ　親の近くに住むのはよくないから。
ｃ　聟にこわい思いをさせてしまったから。
ｄ　娘に財産を分与したかったから。

問八　本文中に波線を付したａ〜ｅの人物のうち、波線部ｘ「博打（ばくち）の子の年若き」と同じ人物を二つ選べ。

ａ　博打一人　　ｂ　天の下の顔よし　　ｃ　聟
ｄ　鬼　　ｅ　しうと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　『宇治拾遺物語』（説話）

①「かしづく」の意味を次の中から選べ。

ア　頭をつける　　イ　妻として従っている　　ウ　下女として使っている　　エ　大切に育てる

②「通ふ」という動作をするのは、普通どちらか、次の中から選べ。

ア　男性　　イ　女性

③「契りを結ぶ」とは、どういう意味で使われるか。次の中から選べ。

ア　宴会を開く　　イ　紐を結ぶ　　ウ　和歌を木の枝に結びつける　　エ　夫婦関係になる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　『建礼門院右京大夫集』〈日記〈歌集〉〉

次の文章は、『建礼門院右京大夫集』の一節で、出家して大原の寂光院に入った建礼門院を、作者右京大夫が訪ねた場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

女院（にようゐん）、大原におはしますとばかりは聞きまゐらすれど、さるべき人に知られではまゐるべきやうもなかりしを、(1)深き心をしるべにて、(2)わりなくてたづねまゐるに、やうやう近づくままに、山道のけしきより、まづ涙は先立ちて言ふ方なきに、御庵（いほり）のさま、御住まひ、ことがら、すべて目も当てられず。(3)昔の御有様見まゐらせざらむだに、(4)大方のことがら、いかがこともなのめならむ。まして、夢うつつとも言ふ方なし。秋深き山おろし、近き梢（こずゑ）に響きあひて、懸樋（かけひ）の水のおとづれ、鹿の声、虫の音（ね）、(5)いづくものことなれど、ためしなき悲しさなり。都ぞ春の錦を裁ち重ねてさぶらひし人々、六十余人ありしかど、見忘るるさまに衰へはてたる墨染めの姿して、わづかに三四人ばかりぞさぶらはるる。その人々にも、「さてもや」とばかりぞ、我も人も言ひ出で（い）たりし、むせぶ涙におぼほれて、すべて言（こと）も続けられず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

今や夢昔や夢とまよはれて　（6）いかに思へどうつつとぞなき

仰ぎ見し昔の雲の上の月かかる深山（みやま）の影ぞ　（7）かなしき

花のにほひ、月の光にたとへても、一方（ひとかた）には飽かざりし御面影、あらぬかとのみたどらるるに、かかる御事を見ながら、何の思ひ出なき都へとて、さればば何とて帰るらむと、うとましく心憂し。

山深くとどめおきつるわが心　（8）やがて住むべきしるべとを　（9）なれ

（『建礼門院右京大夫集』による）

注

女院…建礼門院のこと

問一　傍線（1）「深き心をしるべにて」、（2）「わりなくて」、（8）「やがて住むべき」の解釈として、それぞれ最も適当なものを次の中から選べ。

（1）深き心をしるべにて

A　女院の思いやり深さを頼りとして
B　女院の思いやりを知った上で
C　女院を深く慕う心を導きとして
D　女院を思う心の深さを知る人として

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（２）　わりなくて
A　お会いできぬまま困って
B　お会いしなければならず仕方なく
C　お会いしたくてやむにやまれず
D　必ずしもお会いしたいわけでもなく

（８）　やがて住むべき
A　これからすぐに都に引き返す
B　そのまま出家して大原に住む
C　これから大原にだけ住み続ける
D　大原から直接都には帰らない

問二　傍線（３）「昔の御有様」を具体的に示すものとして、合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えよ。

ア　秋深き山おろし、近き梢に響きあひて
イ　都ぞ春の錦を裁ち重ねてさぶらひし人々、六十余人
ウ　墨染めの姿して、わづかに三四人ばかりぞさぶらはるる
エ　むせぶ涙におぼほれて、すべて言も続けられず
オ　花のにほひ、月の光にたとへても、一方には飽かざりし御面影

ア＝　　イ＝　　ウ＝　　エ＝　　オ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線（４）「大方のことがら、いかがこともなのめならむ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

A　大原の女院のご様子を、なんといい加減に見過ごしてきたのだろうか。
B　大原で女院にお目にかかれたことを、どうして普通のことだと思えるだろうか。
C　大原での女院のお暮らしぶりを、どのようにしたらひと通り見渡せるだろうか。
D　大原での女院のお暮らしぶりを、どうして並みひと通りのことだと思えるだろうか。
E　大原の女院のなさりかたを、どうしたら平気でやりすごせるだろうか。

問四　傍線（５）「いづくものことなれど、ためしなき悲しさなり」は、どのようなことか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

A　秋は都の方が大原よりもおもむき深いが、私には都の秋がむしろ悲しく思われる。
B　都でも山里でも秋のさびしさは同じはずだが、私には大原の秋は悲しく思われる。
C　都よりも大原の秋はいっそうさびしいはずだが、私にはむしろおもむき深く思われる。
D　山里の秋のさびしさは、どこでも同じはずだが、私には大原の秋がこの上なく悲しく思われる。
E　秋のおもむき深さは、所によってそれぞれことなるが、私にはどこでも変わらず悲しく思われる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線（6）「いかに思へどうつつとぞなき」とは、誰のどのような気持ちか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

A　女院は、現実を受け止めきれないで、落胆してしまっている。
B　女房たちは、昔をなつかしむほかない、と悟（さと）りきっている。
C　女房たちは、昔のことも今のことも区別がつかず、とまどっている。
D　作者は、どう考えても現実のこととは思えず、とまどっている。
E　作者は、今も昔に変わらない暮らしをしたいと願っている。

問六　傍線（7）「かなしき」、（9）「なれ」の活用形をそれぞれ次の中から選び、符号で答えよ。

A　未然形　　B　連用形　　C　終止形　　D　連体形　　E　已然形　　F　命令形

（7）＝　　　　（9）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）

①　次の中から「出家」をあらわすものを全て選べ。

ア　世をいとふ　　イ　発心す　　ウ　御髪とく　　エ　世を離る　　オ　頭おろす

②　「おこなふ」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　勤行する　　イ　実行する　　ウ　旅行する　　エ　催行する　　オ　運行する

③　「さまかへ」の内容として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

1　離縁すること　　2　出家すること　　3　零落すること
4　身を隠すこと　　5　髪上げをすること

④　「やがて」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　いつか遠い将来　　イ　すぐに　　ウ　夜になれば　　エ　気づけば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　『発心集』（仏教説話）

次の文章を読んで後の設問に答えよ。

（注1）八幡別当頼清が（注2）遠流にて、永秀法師といふ者ありけり。家貧しくて、(1)心すけりける。夜昼、笛を吹くより外の事なし。かしかましさにたへぬ隣り家、やうやう立ち去りて後には、人もなくなりにけれど、(2)さらにいたまず。さこそ貧しけれど、落ちぶれたる振る舞ひなどはせざりければ、さすがに人いやしむべき事なし。頼清聞き、あはれみて使ひやりて、「などかは何事ものたまはせぬ。かやうに侍れば、(3)さらぬ人だに、事にふれてさのみこそ申し承る事にて侍れ。(4)うとくおぼすべからず。便りあらん事は、憚らずのたまはせよ」といはせたりければ、「返す返す、かしこまり侍り。年来も申さばやと思ひながら、身のあやしさに、かつは恐れ、かつは憚りてまかり過ぎ侍るなり。深く望み申すべき事侍り。すみやかに参りて申し侍るべし」といふ。「何事にか、よしなき情をかけて、(5)うるさき事やいひかけられん」と(イ)思へど、「彼の身のほどには、いかばかりの事かあらん」と(6)思ひあなづりて過す程に、ある片夕暮れに出で来たれり。則ち出で合ひて、「何事に」など(ロ)いふ。「あさからぬ所望侍るを、思ひ給へてまかり過ぎ侍りし程に、(7)一日の仰せを悦びて、左右

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なく参りて侍る」といふ。「疑ひなく、所知(注3)など望むべきなめり」と思ひて、これを尋ぬれば、「筑紫に御領多く侍れば、漢竹(注4)の笛の、事よろしく侍らん一つ召して給はらん。これ、身に取りてきはまれる望みにて侍れど、あやしの身には得がたき物にて、年来(としごろ)えまうけ侍らず」といふ。

(8)思ひの外に、いとあはれに(ハ)覚えて、「いといとやすき事にこそ。すみやかに尋ねて、(9)奉るべし。その外、御用ならん事は侍らずや。月日を送り給ふらん事も心にくからずこそ侍るに、さやうの事も、などかは承らざらん」といへば、「御志はかしこまり侍り。されど、それは事欠け侍らず。二三月に、かく帷(かたびら)一つまうけつれば、十月までは、さらに望むところなし。又、朝夕の事は、おのづからあるに任せつつ、とてもかくても過ぎ侍り」と(ニ)いふ。

「げに、すきものにこそ」と、あはれにありがたく覚えて、笛いそぎ尋ねつつ送りけり。

（鴨長明『発心集』による）

（注）
1　八幡別当—石清水八幡宮の別当。
2　遠流—遠い親類。
3　所知—領地。
4　漢竹—中国原産の竹をいい、多く笛に用いた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　風流心があった　2　心がすさんでいた　3　探求心が旺盛であった
4　依頼心が強かった　5　心に信念を持っていた

問二　傍線部（2）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　まったく家は壊れなかった　2　まったく病気が回復しなかった
3　まったく気にしなかった　4　ますます同情されなかった
5　ますます動きようがなかった

問三　傍線部（3）「さらぬ人」とはどういう人か。次の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　笛を吹かない人　2　隣家から出て行かない人
3　出家しない人　4　何も言わない人
5　縁もゆかりもない人

問四　傍線部（4）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　つらく　2　よそよそしく　3　不満に
4　心配に　5　不思議に

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部（５）の意味として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　騒音のこと　　2　引っ越しのこと　　3　許せないこと
4　面倒なこと　　5　訴訟のこと

問六　傍線部（６）について、なぜそう思ったのか。次の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　遠い親類だから　　2　畏れ多いから
3　身分が低いから　　4　健康状態が良くないから
5　ぜいたくに暮らしているから

問七　傍線部（７）の指している部分として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　「などかは・・・・・憚らずのたまはせよ」
2　「返す返す・・・・・申し侍るべし」
3　「何事にか・・・・・いひかけられん」
4　「彼の身の・・・・・事かあらん」
5　「何事に」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部（8）について、なぜ「思ひの外」だったのか。次の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　思ったよりも簡単だったから
2　思ったよりも高価だったから
3　思ったよりも笛が上手だったから
4　思ったよりも難しそうだから
5　思ったよりも遠くにあるものだったから

問九　傍線部（9）を十字以内で現代語訳せよ。（句読点は不要）

問十　二重傍線部（イ）～（ニ）はそれぞれ誰の動作・行為か。次の中から最も適当なものを一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

1　頼清　　2　永秀　　3　隣家の人　　4　筑紫の人　　5　筆者

（イ）＝　　（ロ）＝　　（ハ）＝　　（ニ）＝

問十一　波線部「られ」の文法上の意味は何か。次の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　尊敬　　2　可能　　3　受身　　4　自発　　5　推定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　『発心集』（仏教説話）

①『発心集』の作者の作品を次の中から一つ選べ。

ア　枕草子　イ　方丈記　ウ　徒然草　エ　山家集　オ　無名草子

②「うとし」の単語の意味を次の中から一つ選べ。

ア　つらい　イ　疎遠だ　ウ　不満だ　エ　心配だ　オ　不思議だ

③「うるさし」の単語の意味を次の中から一つ選べ。

ア　やかましい　イ　引っ越しする　ウ　許せない　エ　わずらわしい　オ　うるわしい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講『曽我物語』（軍記物語）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

かかるほどに、やうやく積もり行く年月なれば、箱王も十七歳にぞなりにける。九月上旬の頃、別当、宣ひけるは、箱王殿、今年の授戒には法師になり給ふべし。童(わらは)にて、物の具どもも見苦しくて上り給はば、憚(はばか)りあり。法師になり給はば良かりなむとて、大衆(だいしゅ)にこの由を触れられけり。すでに明日、法師になさむとするあひだ、箱王、心の中に思ひけるは、こは、いかがすべき。明けても暮れても、ただ祐経(すけつね)がことのみ思ひゐたり。たとひ法師になるとも、学問・勤行(ごんぎやう)もこのことを思ひ出だし、あはれ、男になりて十郎殿と連れ奉り、敵(かたき)を討つべきものをと心憂きことに思ひなば、かへりて罪業(ざいごふ)となりぬべし。ただ一向に思ひ切りて本意を遂ぐべし。言ふに甲斐なく髪を剃ぎ離されて後は、千度百度[1]悔ゆとも益あるまじ。善悪、十郎殿と申し合はせて、ともかくも思ひ定めむと、箱王はただ一人、泣く泣く箱根の御山を出で、よもすがら、[2]曽我の里へと下りけり。

十郎が方に行きつつ、呼び出して逢ひにけり。十郎これを見て、いかに、ただ今、何事におはしたるぞと言ひければ、箱

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

王、泣く泣く申しけるは、すでに明日、法師になるべきにて候へば、いかやうにも申し合はせ奉り、ともかくも計らはむために下り候ふと語りければ、十郎、我もさと聞きつれば、うち上りて御有様をも見ばやと思ひつれども、なかなか目も当てられじと思ひて、思ひも立たず、ただ独り[a]泣きゐたるところに、嬉しくも[b]おはしたりとて、袖を合はせて泣きけり。

箱王、涙を押さへて、出家の儀、母の御本意にて候へば、その儀を存じて年来(としごろ)も罷(まか)り過ぎ候ひつ。一年、鎌倉殿、御二所詣での時、敵左衛門尉(さゑもんのじよう)を一目見しより以来(このかた)、片時(へんし)もその面影を[c]忘れず候ひき。経を読み行法(ぎやうぼふ)を営めども、その面影を思へば心も空になりて善心もさらに身に添はず、飲酒を行ふ折節も、その心だにも出で来たれば、胸塞(せ)き心迷(まど)ひて山海の珍物もその味を知らず。それにつけても、父の御跡のみ恋しく、たとひ法師になり候ふとも、この悪念やむことなくば、なかなかかへりて父の御為にも我身の為にも罪業となりぬべく覚え候ふなり。明日、法師になるべく候へば、さだめて[d]御登山候はむと[3]待ち参らせ候へども、その儀もなく候ひつるあひだ、とかく申し合はせ奉らむと、人にも知らせず深山の中をただ独り[e]罷り下り候ふ道すがらも、峰に登る時は父の恩の高きことを思ひ出だし、谷へ下る時は母の徳の深きことを嘆き、そぞろに涙も留まらず候ふ。漢(から)の国の中鳴が七歳にて父の跡をたづねて南蛮へ越えし思ひ、非赤山が九歳にて契丹の国へ赴き

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

し悲しみも、我が身の上に思はれ、袂も袖も濡れ果てて罷り下り候ひぬと語りければ、十郎聞きもあへず声を合はせて泣きにけり。

（『曾我物語』による）

〈注〉
別当…寺の最上級職
授戒…仏門に入る者に戒律を授けること
物の具…衣装
大衆…多くの僧たち
鎌倉殿…源頼朝
行法…仏道の修行

問一　傍線部１「悔ゆ」とあるが、何を悔いるのか。その内容として最も適当なものを一つ選べ。

１　髪を剃ぎ落してしまうこと
２　見苦しい身なりで都に上ること
３　敵の祐経を討たないこと
４　学問・勤行が十分にできないこと
５　元服できないこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部２「曾我の里へと下りけり」とあるが、そのようにした理由として最も適当なものを一つ選べ。

１　明日には法師になる予定であるが、法師になった後の学問をどのように進めるか考えておかなければならず、それについて打ち合わせるため

２　明日には法師になる予定であるが、法師になるためには髪を剃ぐ必要があり、それが嫌であるため、うまく避ける方法を見出そうとして

３　明日には法師になる予定であるが、法師になる前に父や母への感謝の気持ちを思い起こす必要があると考え、険しい山道を辿ろうとして

４　明日には法師になる予定であるが、飲酒や山海の珍味などに対する執着から逃れられないので、なんとかそれを振り払うため

５　明日には法師になる予定であるが、もし法師になってしまえば敵を討つことができなくなるので、どうしたらよいか相談するため

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　波線部ａ〜ｅの動作の主体は誰か。その組み合せとして最も適当なものを選べ。

1	a　箱王	b　十郎	c　十郎	d　箱王	e　十郎
2	a　十郎	b　十郎	c　箱王	d　箱王	e　十郎
3	a　十郎	b　箱王	c　箱王	d　十郎	e　箱王
4	a　箱王	b　箱王	c　十郎	d　十郎	e　箱王
5	a　箱王	b　十郎	c　十郎	d　十郎	e　箱王
6	a　箱王	b　十郎	c　箱王	d　箱王	e　十郎
7	a　十郎	b　箱王	c　十郎	d　箱王	e　箱王
8	a　十郎	b　箱王	c　箱王	d　十郎	e　十郎

問四　傍線部３「待ち参らせ候へども」を現代語に改めよ。ただし、十五字以内とし、句読点等も字数に含むものとする。

問五　傍線部４「語りければ」とあるが、この発話の最初の五字をそのままの形で抜き出して記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部５「聞きもあへず」とあるが、その意味として最も適当なものを一つ選べ。

1　聞き入れてくれずに
2　聞こえないように
3　聞くやいなや
4　聞き終わらないうちに
5　聞くかと思いきや

※補足

【旧暦一月～十二月】

睦月（むつき）・如月（きさらぎ）・弥生（やよひ）・卯月（うづき）・皐月（さつき）・水無月（みなづき）・文月（ふ(み)づき）・葉月（はづき）・長月（ながつき）・神無月（かんなづき）・霜月（しもつき）・師走（しはす）

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　『曾我物語』（軍記物語）

①　「卯月」、「長月」とは、それぞれ旧暦何月に当たるか。次の中から最適なものを一つ選べ。

ア　二月―七月　　イ　四月―九月　　ウ　五月―九月
エ　五月―十月　　オ　四月―十月

②　「なかなか事うるはしければ」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

A　驚くくらいに飾り物が美しいので
B　仰々しいほどに儀式が煩雑なので
C　かえって物事がきちんとしすぎなので

③　「袖を濡らす」の意味として、正しいものを次の中から選べ。

ア　泣く　　イ　家事をする　　ウ　貧しくなる　　エ　感激する　　オ　恋をする

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　『大鏡』（歴史物語）

次の文章を読んで後の設問に答えよ。

敦敏（あつとし）の少将の子なり、（注１）佐理大弐（すけまさのだいに）、世の手書の上手。任はてて上（のぼ）られけるに、伊予国の前（まへ）なる泊（と）まりにて、日いみじう荒れ、海の面（おもて）あしくて、風おそろしく吹きなどするを、少しなほりて出（い）でむとしたまへば、また同じやうになりぬ。かくのみしつつ日ごろ過ぐれば、いと（１）あやしく思（おぼ）して、もの問ひたまへば、「神の御祟（たた）り」とのみ言ふに、（２）さるべきこともなし。いかなることにかと、怖れたまひける夢に見えたまひけるやう、いみじうけだかきさましたる男のおはして、「この日の荒れて、日ごろここに経たまふは、おのれがしはべることなり。よろづの社（やしろ）に額のかかりたるに、おのれがもとにしもなきがあしければ、かけむと思ふに、（３）なべての手して書かせむがわろく（イ）はべれば、（４）われに書かせたてまつらむと思ふにより、（５）この折ならではいつかはとて、とどめたてまつりたるなり」とのたまふに、「誰とか申す」と問ひ（ロ）申したまへば、「この浦の（注２）三島にはべる翁（おきな）なり」とのたまふに、夢のうちにもいみじうかしこまり申すと（ハ）思すに、（６）おどろきたまひて、（７）またさらにも言はず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さて、伊予へ渡りたまふに、多くの日荒れつる日ともなく、うらうらとなりて、そなたざまに追風（おひかぜ）吹きて、飛ぶがごとくまうで着きたまひぬ。湯たびたび浴（あ）み、いみじう潔斎して清まはりて、（注３）昼（ひ）の装束して、（８）やがて神の御前にて書きたまふ。神司（かみづかさ）ども召し出だして（注４）打たせなど、よく法のごとくして帰りたまふに、つゆ怖（おそ）るることなくて、すゑずゑの船にいたるまで、たひらかに上りたまひにき。わがすることを（９）人間にほめあがむるだに興（きよう）あることにてこそあれ、まして神の御心にさまでほしく（三）思しけむこそ、いかに（10）御心おごりしたまひけむ。

（『大鏡』による）

（注）
1　佐理―藤原佐理。敦敏の長男で、正暦二（九九一）年に大宰大弐となる。
2　三島―瀬戸内海の大三島のこと。大山祇（おおやまつみ）神社がある。
3　昼の装束して―正装である束帯姿になって。
4　打たせ―額を社殿に掲げるために、打ち付けること。

問一　傍線部（1）の意味として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　意外だ　　2　おそろしい　　3　心配だ　　4　不思議だ　　5　不都合だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部（２）の解釈として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　神が祟ったというような兆候もない。
2　すぐには納得することができない。
3　祟りを受けるような心当たりもない。
4　天候が回復するようなこともない。
5　なかなか出発することもできない。

問三　傍線部（３）の意味として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　かなり　2　さまざま　3　上手　4　すべて　5　普通

問四　傍線部（４）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　あなたに書かせ申しあげよう。
2　私に書かせてください。
3　私のためにお書きいただこう。
4　自らお書きくださるだろう。
5　自然とお書きなされるだろう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部（５）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

１　この季節であればいつがいいのだろうか。
２　この機会でなくてはいつがあろうか。
３　こんな場合でなくてもいつかはできるだろう。
４　こんな時節でなければいつでもよいのに。
５　こんな場合であってもいつか実現できるだろう。

問六　傍線部（６）の意味を五字以内で記せ。

問七　傍線部（７）の解釈として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

１　今さら夢の中の話を人に話すこともできない。
２　おそれ多くて相手に何も言えなかった。
３　謹んで書こうと決めたことは言うまでもない。
４　まったく言葉に言い表すことができない。
５　夢の中ではそれ以上のお告げがなかった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部（8）の意味として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　かろうじて　　2　しだいに　　3　しばらくして
4　すぐに　　5　ゆっくりと

問九　傍線部（9）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　現世においてもてはやされることまで
2　世間でほめたたえるだけでも
3　せめて人並みにほめられたことだけでも
4　人間業でないと尊敬するだけでも
5　面と向かって直接にほめることさえ

問十　傍線部（10）の「御心おごり」の説明として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　勝手な振る舞いをすること　　2　神をも恐れないこと
3　邪念を持つこと　　4　他人を見下すこと
5　得意になること

問十一　━線部の文法上の意味は何か。次の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　自発　　2　受身　　3　可能　　4　尊敬

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十二　波線部（イ）〜（ニ）はそれぞれ誰の誰に対する敬意か。次の中から最も適当なものを一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

1　書き手の藤原佐理に対する敬意
2　書き手の三島の翁に対する敬意
3　藤原佐理の三島の翁に対する敬意
4　三島の翁の藤原佐理に対する敬意

（イ）＝　　（ロ）＝　　（ハ）＝　　（ニ）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　『大鏡』（歴史物語）

①　『大鏡』と最も関係の深い人物を、次の中から一つ選べ。

ア　稗田阿礼　イ　清少納言　ウ　藤原道長　エ　鴨長明　オ　藤原定家

②　次の文は『大鏡』の説明である。空欄［ア］〜［ウ］に入る最も適当な語をそれぞれ選べ。

大鏡は［ア］時代に紀伝体で書かれた［イ］物語であり、［イ］物語には他に［ウ］物語がある。

ア　１　平安　２　鎌倉　３　南北朝　４　室町

イ　１　伝奇　２　作り　３　歌　４　歴史

ウ　１　栄華　２　源氏　３　伊勢　４　堤中納言

③　「そこたちの事」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　出立するということ　ロ　あなた方のこと　ハ　馬二疋を借りたいということ

ニ　あれやこれやの事情　ホ　ここで起きた出来事

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　『源氏物語』（作り物語）

次の文章は『源氏物語』夕顔巻の一節で、病気で出家した乳母（めのと）を光源氏が見舞う場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

尼君も起きあがりて、「惜しげなき身なれど、捨てがたく思ひたまへつることは、ただかく御前（おまへ）にさぶらひ御覧ぜらるることの変りはべりなんことを、口惜しく思ひたまへたゆたひしかど、忌（い）むことの(1)しるしによみがへりてなん、かく渡りおはしますを見たまへはべりぬれば、(2)今なむ阿弥陀仏（あみだぼとけ）の御光も心清く待たれはべるべき」など聞こえて、弱げに泣く。「日ごろ(3)おこたりがたくものせらるるを、やすからず嘆きわたりつるに、かく世を離るるさまにものしたまへば、いとあはれに口惜しうなん。命長くて、なほ位高くなど見なしたまへ。さてこそ九品（ここのしな）の上（かみ）にも障りなく生まれたまはめ。この世にすこし恨み残るはわろきわざとなむ聞く」など、涙ぐみてのたまふ。

かたほなるをだに、乳母やうの思ふべき人はあさましうまほに見なすものを、(4)ましていと面だたしう、なづさひ仕（つか）うまつりけん身もいたはしうかたじけなく思ほゆべかめれば、すずろに涙がちなり。子どもはいと見苦しと思ひて、「背きぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る世の去りがたきやうに、みづからひそみ御覧ぜられたまふ」と、つきしろひ目くはす。

君はいとあはれと思ほして、「(5)いはけなかりけるほどに、思ふべき人々のうち捨ててものしたまひにけるなごり、はぐくむ人あまたあるやうなりしかど、親しく思ひむつぶる筋はまたなくなん思ほえし。人となりて後は、限りあれば朝夕にしもえ見たてまつらず、心のままにとぶらひまうづることはなけれど、なほ久しう対面せぬ時は心細くおぼゆるを、(6)さらぬ別れはなくもがなとなん」などこまやかに語らひたまひて、おし拭(のご)ひたまへる袖(そで)の匂(にほ)ひも、いとところせきまで薫(かを)りみちたるに、「げによに思へば、(7)おしなべたらぬ人の御宿世(みすくせ)ぞかし」と、尼君をもどかしと見つる子どももみなうちしほたれけり。

（『源氏物語』による）

注

忌むこと…出家して受戒の儀式を受けること。
阿弥陀仏…臨終に際し来迎する仏。
九品…極楽浄土は上品・中品・下品に分かれ、さらに各品は上生・中生・下生に分かれ、全体で九階級ある。
子ども…乳母の子供たち。
限り…身分的制約。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線（1）・（3）・（5）・（7）の意味として、もっとも適当なものを次の中から選べ。

（1）「しるしに」

A　前兆で　　B　ききめで　　C　予想どおりに　　D　目印に

（3）「おこたりがたく」

A　治りそうになく　　B　まちがいを犯しそうに

C　怠けることができなそうに　　D　愚かしそうに

（5）「いはけなかりけるほどに」

A　言いようのなかったときに　　B　年老いたときに

C　生まれたときに　　D　幼かったときに

（7）「おしなべたらぬ」

A　すべてではない　　B　世間並みではない　　C　非凡ではない　　D　ありきたりな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線（２）「今なむ阿弥陀仏の御光も心清く待たれはべるべき」とは、どのような心境をいったものか。もっとも適当なものを次の中から選べ。

A　往生に執着する気持ち。
B　死を受け入れようとする気持ち。
C　往生をあきらめようとする気持ち。
D　死を恐れる気持ち。
E　往生への希求と死の恐怖のはざまで揺れ動く気持ち。

問三　傍線（４）「まして」の後には省略がある。補うべき内容として、最も適当なものを次の中から選べ。

A　「子ども」と「君」を平等に育てたことは
B　「君」を「まほ」に見なさなかったことは
C　「かたほ」である「君」を「まほ」に育てあげたことは
D　「かたほ」である「子ども」を「まほ」に育てあげたことは
E　「まほ」である「君」を育てたことは

問四　傍線（６）「さらぬ別れはなくもがな」を、具体的で平易な現代語に訳せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　本文の内容と合致していないものを次の中から一つ選べ。

Ａ　これまでどおり光源氏にお仕えしたくて、乳母は出家を躊躇（ちゅうちょ）していた。

Ｂ　長生きして自分の立身出世を見届けてほしいと、光源氏は乳母を励ました。

Ｃ　光源氏は、自分を養育した人たちの中で、尼君に一番親しみを感じていた。

Ｄ　光源氏が成人した後は、それ以前のように頻繁に乳母に会うことはできなくなった。

Ｅ　乳母の子供たちは、光源氏に愚痴をこぼす母を、終始非難がましくながめていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　『源氏物語』（作り物語）

①　「頼みきてひさしくなりぬ住吉のまづこのたびの<u>しるし見せなむ</u>」の傍線部の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　霊験を見せてほしいと神に願っている。

イ　祟り（たた）の理由を教えてほしいと頼んでいる。

ウ　自分の信仰の証拠が見せられないことを嘆いている。

②　「おこたる」の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　過ちを犯す　　イ　病気が軽くなる

ウ　効き目がなくなる　　エ　油断する

③　「いとけなし」の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

イ　かわいい　　ロ　幼い　　ハ　かしこい　　ニ　無邪気な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　『正徹物語』（歌論書）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

家隆は、四十以後、はじめて作者の名[a]を得たり。それより前もいかほどか歌を詠みしかども、名誉せらるることは、四十以後なりしなり。頓阿は、六十以後、この道に名を得たるなり。かやうに、昔の先達も、初心から名誉はなかりしなり。稽古、数寄、劫（こふ）積りて、名望ありけるなり。

今の時分の人、いまだ、歌ならば一、二百首詠みて、やがて定家、家隆の歌を似せむと思ひ侍ること、をかしきこと[b]となり。定家も「行かずして長途にいたることなし」と書きたり。[A]坂東、鎮西のかたへは、日を経てこそいたるべきに、ただ思ひ立ち一足にいたらむとするがごとしと云々。

ただ、数寄の心深くして、昼夜の修行おこたらず、まづなびなびと口がろに詠みつけなば、自然と求めざるに興ある所へ行き着くべきなり。

ただし、後京極摂政殿は、三十七にて薨（こう）じ給ひしが、生得の上手にておはしまして、殊勝のものどもあそばしき。[B]もし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

八十、九十の老年までおはしましたらば、いかになほ重宝どもあそばされむずらむと申し侍りし。C宮内卿は、二十よりうちになくなりしかば、いつのほどに稽古も修行もあるべきぞなれども、名誉ありしは生得の上手にてあるゆゑなり。生得の堪能にいたりては、初発心（しょほっしん）の時、便成正覚（べんじゃうしゃうがく）なれば、修行を待つところにあらず。

しからざらむ輩は、ただ不断の修行をはげまして年月を送るは、つひに自得発明（ほつみゃう）の期あるべきなり。ただ、数寄に越えたる重宝も肝要もなきなり。上代にも、数寄の人びとは、古今の大事をも許し、勅撰にも入れられ侍り。まことの数寄だにあらば、などか発明の期なからむ。

（『正徹物語』）

注

なびなびと…のびのびと。

初発心の時、便成正覚…悟りを求めようと初めて思ったときに、すでに仏としての悟りが完成していること。『華厳経』による。

発明…真理を悟ること。

古今の大事…『古今和歌集』をめぐる歌道の秘事。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部ａ・ｂの意味として適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

ａ　名

1　雅号　2　声望　3　面識　4　秀でた技能　5　名簿に載ること

ｂ　をかしき

1　すばらしい　2　おくゆかしい　3　興味深い　4　適切である　5　滑稽である

問二　二重傍線部「詠みつけなば」の文法的説明として適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　四段活用動詞「詠みつけぬ」未然形＋接続助詞「ば」
2　下二段活用動詞「詠みつく」未然形＋打消の助動詞「ず」未然形＋係助詞「は」の濁音形
3　下二段活用動詞「詠みつく」連用形＋完了の助動詞「ぬ」未然形＋接続助詞「ば」
4　下二段活用動詞「詠みつく」連用形＋推定の助動詞「なり」連体形＋接続助詞「ば」
5　下二段活用動詞「詠みつく」連体形＋断定の助動詞「なり」連体形＋係助詞「は」の濁音形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部Ａ「坂東、鎮西のかたへは、日を経てこそいたるべきに、ただ思ひ立ち一足にいたらむとする」の説明として適当なものを、次の中から一つ選べ。

１　京都から関東や九州へは道が遠く、出発する前に何日もかけて準備をしなければならないのに、行こうと思ったその場でただちに出発すること。
２　京都から関東や九州へは道が遠く、何日もかけてようやく行き着くことができるのに、行こうと思ったらすぐに一気に行けると思うこと。
３　京都から関東や九州へは道が険しくて不安であるので、よい日を選んで出発しなければならないのに、行こうと思ってすぐに出発すること。
４　関東から九州へは道がはるかであり、よい日を選びながら何日かごとに進むのがよいのに、気分が乗った日にどんどん先に行こうと思うこと。
５　関東から九州へは道がいく通りもあり、途中途中で道を選びながら進むことができるのに、最初にひと通りしか考えないで出発すること。

問四　傍線部Ｂ「もし八十、九十の老年までおはしましたらば、いかになほ重宝どもあそばされむずらむ」の解釈として適当なものを、次の中から一つ選べ。

１　もし高齢の人がいらっしゃったならば、立派な歌をさらにたくさん詠んで差し上げていたことでしょう
２　もし高齢の人がいらっしゃって助言してくださるならば、どれほど優れた歌詠みにおなりになることでしょう
３　もし高齢まで生きていらっしゃれば、どれほど周囲から頼りにされることになるでしょう
４　もし高齢まで生きていらっしゃったならば、秀でた歌をさらにどれほどたくさんお詠みになっていたことでしょう
５　もし高齢まで生きていらっしゃっても、どうしていつまでも財宝を使って遊んでいることができるでしょう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部Ｃ「宮内卿は、二十よりうちになくなりしかば、いつのほどに稽古も修行もあるべきぞなれども、名誉ありしは生得の上手にてあるゆゑなり」の説明として適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　宮内卿は、二十歳にならずに亡くなってしまった。修練を十分に積む年月が短い生涯のうちにあったとも思えないが、天賦の才能によって優れた歌を詠んだ。

2　宮内卿は、二十歳にならずに亡くなってしまった。修練を積むには年月がなかったはずであるが、人一倍修練に励んで優れた歌を遺したというのも、天賦の才能である。

3　宮内卿は、二十歳にならずに亡くなってしまった。修練をどのように積んだかは分からないが、天賦の才能だけでは得られない、優れたものが、宮内卿の歌にはある。

4　宮内卿は、二十歳前に亡くなっていたら、修練の成果を書き留めることもできなかったであろう。しかし、二十歳を過ぎて才能が開花し、優れた歌を遺すことができた。

5　宮内卿は、二十歳前に亡くなっていたら、修練を十分に積む年月はなかったであろう。しかし、幸い長寿でいることができたので、優れた歌を後世に遺すことができた。

問六　本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

1　家隆は、四十歳までは歌を詠んでいなかった。
2　昔の人は、初心者と名手とを区別するようなことをしなかった。
3　当代の人は、百首、二百首を詠んだくらいで定家や家隆のまねをしようとする。
4　筆者は、定家の説を使って自分の論を展開している。
5　優れた歌は、素材として自然の風景や事物を選ぶのが当然であった。
6　名歌を鑑賞することは、修行を必要とせず、誰にでもできることである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　優れた歌を詠むためには普通の人はどうすればよいと、筆者は言っているか、説明せよ（句読点とも三十字以内）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※補足

★八代集＝平安前期～鎌倉初期にかけての左記の八つの勅撰和歌集

（平安時代）

古今和歌集　撰者…紀貫之、紀友則（とものり）、凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）、壬生忠岑（みぶのただみね）

後撰和歌集　撰者…「梨壺の五人」（清原元輔ら）

拾遺和歌集

後拾遺和歌集

金葉和歌集　撰者…源俊頼

詞花和歌集

千載和歌集　撰者…藤原俊成（＝定家の父）

（鎌倉時代）

新古今和歌集　撰者…藤原定家　勅命…後鳥羽院

〈覚え方〉古今と新古今に挟まれて、間は「**五千**円、**拾**った**後**にまた**拾**い、**金曜しかせんざい**食べない」

（後撰　拾遺　後拾遺　金葉詞花　千載（＝「せんざい」ですが…。））

★六歌仙＝平安初期の歌の名人六人

大伴黒主（おおとものくろぬし）、小野小町、文屋康秀（ふんやのやすひで）、在原業平（ありわらのなりひら）、僧正遍昭（そうじょうへんじょう）、喜撰（きせん）法師

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　『正徹物語』（歌論書）

①　飛鳥井雅経（まさつね）は『新古今和歌集』の撰者の一人である。雅経以外の撰者を次の（a）の中から一人選べ。また、撰集の命を下した人物を次の（b）の中から一人選べ。

（a）

ア　源実朝　　イ　和泉式部　　ウ　藤原公任　　エ　藤原定家　　オ　西行

（b）

ア　醍醐天皇　　イ　白河上皇　　ウ　鳥羽天皇　　エ　後白河上皇　　オ　後鳥羽上皇

②　藤原俊成が撰者として編纂した勅撰和歌集を、次の中から一つ選べ。

ア　古今和歌集　　イ　拾遺和歌集　　ウ　金葉和歌集　　エ　詞花和歌集　　オ　千載和歌集

③　在原業平とほぼ同時期に活躍した歌人名として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　藤原定家　　ロ　清少納言　　ハ　山上憶良　　ニ　源実朝　　ホ　小野小町

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　『本朝桜陰比事』（近世小説）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

むかし、都の町はづれより、賀茂川の岸づたひに、北山へ帰る老人あり。折ふし、十二月二十八日の夕暮れ、世間は①春の事ども取りいそぎ、心せはしきけふも、*御堂(みだう)下向の道芝に、紙包(かみづつみ)見えけるを拾ひあぐれば、「小判三両」と書付あり。

いかなる人の、節季をしまふ(A)心当てにもやと、あと先見しに、往来もなく、はるかの松陰に、柴売と見えし人の立ち休むに追ひつき、「そなたはこれを②落とし給はぬか。」といへば、「いかにも我ら、落としたれども、その方の手に入るからは、そなたの物。」といふ。「これは近ごろ、めいわくなる申され分なり。たとへこの主のなきとて、取りては帰らじ。まして主ある金子(きんす)を、とりて帰るべきか。」と、その者に渡せば、拾ひし者に返しぬ。なげやれば、*ほほりつけ、しばらくこの(B)論やむ事なし。後には、*黒木売・牛つかひ、立ちとどまりて、「今の世の中には③ためしなき事ぞ。」と、両人の心ざしを感じける。

いよいよ互ひに道を立て、この小判をさまり所なく、とかくこの論、下にて済み難く、両人*御前(ごぜん)へ罷(まか)り出で、右の段段

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

申し上ぐれば、当番の役人衆聞き給ひて、「前代(ぜんだい)になき事、これは都の今聖人なるべし。」と、この段御取次申し上げらるる折ふし、御前には御(C)気色あしく、前後に京中の医者衆相つめられける。時に御名代の家老職をめされ、智恵だめしにこの裁きを④仰せ付けられしに、ここを大事と思案して、その拾ひし三両の小判を出させ、御前の小判三両合わせて六両を取りまぜ、三所に置きて、「まづ、落としたる者に二両渡して一両の損なり。また、拾うたる者二両とれば、これも一両の損なり。御前の金も一両御失墜なり。両方ともにまかり立て」と、申し付けられけるを、いづれも(D)発明なるさばきなりと、⑤これを感じ、この段御耳に立つるに、なかなか御同心なく、「その方どもが気のつけ所、相違なり。この二人内談にて、かく取りむすびし作りものなり。その子細は、拾ひし者、その主と論におよばず、捨てやうはさまざまありしに、ここに出でける所、第一の聞き所なり。正直者と都に顔を見知らせ、すゐずゐ*人をかたりの⑥たくみせしには違ふまじ。その二人呼びかへせ。」と、また、御前にめし出され、右の段段仰せわたされ、「ありのままに白状申さぬにおいては、拷問。」と、きびしく御詮議かかれば、⑦山家の者驚き、「あの者に頼まれ、何心もなくいひふくめ候ふ通りに、落とし手に罷りなり、あらそひ候ふ」と申し上ぐる。「しかれば、悪事は拾ひ手めがたくみなり。見分(けんぶん)、*家に杖突く年をして、無用の心根(ね)、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

仕置きにもすべきなれども、おのれが身の上ばかり、⑧外にさはらぬ事なれば、洛外（らくぐわい）までも払ふべし。」また、たのまれし者めは、久しく住所の鞍馬にちかき麓（ふもと）里を、追ひ払ひ給ひけるとなり。

（西鶴『本朝桜陰比事』巻三の四「落とし手あり拾ひ手あり」より）

〈注〉

御堂下向…御堂参りの帰り道。
ほほりつけ…放りつけ。
黒木売…八瀬・大原から京都の町へ黒木（生木をいぶした薪）を売りに来る女たち。
御前…京都の町奉行。
人をかたりの…人をだますための。
家に杖突く年…五十歳。

問一　傍線部①「春の事ども取りいそぎ」とは、何を急いでいる様子を表しているか。次の中から最も適当なものを一つ選べ。

イ　新年の挨拶まわり　　ロ　歳末の取り立て　　ハ　正月祝いの準備
ニ　衣替えの準備　　ホ　婚礼の準備

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部（A）〜（D）の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

（A）心当て
イ　心みだれ　ロ　心づもり　ハ　執心
ニ　気概　ホ　気力

（B）論
イ　言い捨て　ロ　言い繕い　ハ　言い残し
ニ　言い争い　ホ　言い訳

（C）気色
イ　機嫌　ロ　感情　ハ　体調
ニ　懐具合　ホ　人付き合い

（D）発明なる
イ　予想外な　ロ　独りよがりな　ハ　小細工好きな
ニ　不当な　ホ　賢明な

問三　傍線部②「落とし給はぬか」の品詞分解として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　動詞＋補助動詞＋助動詞＋助詞
ロ　動詞＋補助動詞＋助動詞＋助動詞
ハ　動詞＋助動詞＋助動詞＋助詞
ニ　動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
ホ　動詞＋助詞＋助動詞＋助詞
ヘ　動詞＋助詞＋助動詞＋助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部③「ためし」を漢字一字で記しなさい。

問五　傍線部④「仰せ付けられし」の主語として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　御前　　ロ　医者衆　　ハ　家老職　　ニ　両人　　ホ　当番の役人衆

問六　傍線部⑤「これ」の指す内容として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　両者の潔さ　　ロ　両者への不審　　ハ　三方一両損の発想

ニ　三方一両損の法的公平さ　　ホ　奉行所の権威

問七　傍線部⑥「たくみせしには違ふまじ」を現代語訳しなさい。

問八　傍線部⑦「山家の者」は問題文の最初に登場したとき、どのように呼ばれているか。その言葉を五字以上十字以内で抜き出して記しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部⑧「外にさはらぬ事」とはどういうことか、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　京都の町以外では裁けないこと
ロ　京都の町から出て行かないこと
ハ　特に内密にしなくてもいいこと
ニ　奉行所以外に漏れていないこと
ホ　誰にも迷惑をかけていないこと

問十　問題文の内容と合致するものを次のイ〜へから二つ選べ。

イ　三両の落とし手は、拾い手がわざわざ届けてくれたにもかかわらず、執拗に所有権を放棄し、拾い手に三両を受け取るように言い張った。
ロ　三両の拾い手は、落とし手の所有権を主張したが、いくら言っても受け取らないのであきらめた。
ハ　三両の所有権をめぐって、落とし手と拾い手が小判を投げつけるなど派手に争ったために、両人とも奉行所の役人に呼びつけられた。
ニ　三両の落とし手と拾い手は三両の所有権について裁いてもらおうと、目立たぬようにして、密かに二人で奉行所へ訴え出た。
ホ　三両の落とし手と拾い手は共謀者で、三両の事件で世の人を深く信用させた上で、詐欺などをはたらこうとしていたことが別の事件から発覚した。
へ　三両の落とし手は事件に加担したものの、主犯の拾い手の老人に頼まれただけであったので、長年住み慣れた場所から所払いとなった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　『本朝桜陰比事』（近世小説）

①「けしきもや変るらむ」とは、どのような意味か。次の中から最適なものを選べ。

ア　顔色が変わっているだろうか。
イ　大臣の気持ちが変わるだろうか。
ウ　世の中が変わってしまうだろうか。
エ　親子の仲が変わってゆくのだろうか。
オ　入内がとりやめになるだろうか。

②『日本永代蔵』の作者は井原西鶴である。西鶴の作品ではないものを、次の中から一つ選べ。

1　好色五人女　　2　好色一代男　　3　世間胸算用　　4　曾根崎心中

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講

〈解答〉

問一　⑤　　問二　ア　⑤　　イ　④　　問三　③　　問四　③　　問五　③

問六　①　　問七　②　　問八　⑤　　問九　②　　問十　③　　問十一　②

〈現代語訳〉

天皇が、狩をとても好みなさっていた。陸奥、磐手郡から献上された鷹が、他ではみつけられないほど賢かったので、（天皇が）この上もなく大事にお思いなさって御手鷹にしなさった。（天皇はその鷹に）名前を「磐手」とつけなさった。その鷹を、鷹の調練に秀でていて、責任をもって引き受け申し上げていた大納言に（天皇は）預けなさった。夜も昼も、鷹を預かって、飼い養っていらっしゃるうちに、どうなさったのだろうか、（その鷹を）逃がしなさってしまった。心を乱しうろたえて捜し求めるものの、全く見つからない。山々に人をやって捜し求めさせたが、全く見つからない。自分自身（＝大納言）も深い山に入って、さまよい歩きなさるがそのかいがない。このこと（＝天皇の鷹を逃がしてしまったこと）を（天皇に）申し上げないで、しばらくはいられるだろうけど、間をおかずしばしば（いらっしゃって、天皇はこの鷹を）御覧にならない日はない。どうしようかと思って、宮中（＝天皇の所）に参上して、天皇の鷹がいなくなったことを（天皇に）申し上げなさった時に、天皇は、何もおっしゃらない。お聞きにならなかったのだろうかと思って、再び申し上げなさると、（天皇は大納言の）顔をじっとお見つめになるばかりで、何もおっしゃらない。もってのほかだとお思いになっているのだなあと、（大納言は）茫然自失の気持ちになって、恐れ多く思っていらっしゃって、「この鷹が、探しても、おりませんことを、どのようにいたしましょうか。なぜ何もおっしゃってくださらないのか」と申し上げなさったところ、天皇は、

「言わないで思っている方が言葉に出して言うよりも（気持ちが）まさっている」

とおっしゃった。（天皇は）この言葉だけをおっしゃって、他のことは何もおっしゃらなかった。そのお心にどうしようもなく、残念にお思いになっているのであった。これを、世間の人は、上の句をあれこれと付けた。元来はこの言葉だけだったのだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕　※「敬語」の「重要単語」は文法編で既出のため、省いています（第二講以降も同様）

○になし【二無し】…**二つとない**。比べるものがない。すばらしい。

○うち【内】…①**宮中**。内裏(だいり)。②**天皇**。主上。

○うす【失す】…①**なくなる**。消え去る。②**死ぬ**。

※「内部」「家の中」「心の中」などもあるが右記２点が大事。

○おもて【面】…①**顔**。②**面目**。③仮面。

○まもる【守る（＝目守る）】…①**じっと見つめる**。②**見定める**。③警戒する。④守護する。

○たいだいし【怠怠し】…**不都合だ。もってのほかだ**。

○いふかひなし【言ふ甲斐無し】…①**言っても何にもならない**。②**とりあげて言うほどの価値のない**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講

〈解答〉

問一　エ	問二　オ	問三　ウ	問四　イ	問五　ウ
問六　エ	問七　ア	問八　ウ	問九　エ	問十　ウ

〈現代語訳〉

「（前略）同じことを繰り返し言うようでございますが、尽きることなくうらやましく素晴らしゅうございますことは、大斎院から上東門院（彰子）に、『退屈を慰めることができる物語がございませんか』とお尋ね申し上げなさった時に、（上東門院は）紫式部をお呼びになって、『何を差し上げたらよいだろうか』とおっしゃったので、（紫式部は）『目新しいものは何かございますでしょうか、何もございません。新しく作って（上東門院が大斎院に）差し上げなさいませ』と（上東門院に）申し上げたところ、（上東門院は）『（あなたが）作りなさい』とお命じになったのを、（紫式部が）承って、『源氏物語』を作ったということは、とても素晴らしいことでございます」という人がありますと、

また、（一方の人は）「（紫式部が）まだ宮仕えもしないで生家におりました時、このようなもの（＝『源氏物語』）を作り出したことによって、（上東門院のもとに）召し出されて、そのために紫式部という名前がついたのだ、とも申しますのは、どちらが本当なのでしょうか。

その人の日記（＝『紫式部日記』）というものがありましたのにも、『（私が）出仕した初めのころは、気が置かれ、おくゆかしく、またそばにいたら気詰まりであろうと、それぞれ（周囲の女房たちが私のことを）思っていたところ、（実際の私は）意外にもぼんやりしていて、未熟で、一という文字さえ書けない様子で、こんなふうに思わなかった、と友達たちは自然と思う』などと書いています。

道長公のご様子などを、とても素晴らしく思い申し上げながらも、少しも、いかにも気のある様子でなれなれしい態度で書き申し上げたりしないところも素晴らしく、また、皇太后宮（上東門院）の御事を、このうえなく素晴らしいと書き申し上げ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

るにつけても、愛らしく、親しくお仕えした当時の（上東門院の）ご様子も、道長公のご様子も親しみやすくもあり立派でもいらっしゃった、などと申し上げているのも、（紫式部の控えめな）性格には似つかわしくない様子であるようです。（けれど、これは）一方では、道長公や上東門院のご性格でもあるのでしょう。」と言うと、（以下略）

〔重要単語〕

○つれづれ【徒然】…①手持ちぶさたなさま。**退屈なさま。**　②どうしようもなくひとり物思いに沈むさま。
　※形容動詞「つれづれなり」も同意。
○こころにくし【心憎し】…①**奥ゆかしい。**　②恐るべきだ。　③不審だ。
　※「ねたましく感じるほど相手がすぐれている＝プラスのイメージ」が原義。
○かたほ【偏・片秀】…**不十分だ。未熟だ。**⇕**まほ**【真秀】…十分だ。まともだ。
○なつかし【懐かし】…①**心がひかれる。**慕わしい。　②**親しみやすい。**　③昔が思い出されて、慕わしい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講

〈解答〉

問一　a　**問二**　b　**問三**　b　**問四**　c

問五　b　**問六**　b　**問七**　a　**問八**　b・c

〈現代語訳〉

昔、博打(ばくち)打ちの子で若い子供が、目も鼻もひとところに集まったような、この世の者とも思われない顔をしていた。両親が、この子を、どのようにして人なみの人生を送らせようかと悩んでいたところ、長者の家に大切に育てている娘がいて、顔の良い婿をとりたいものだと、（その娘の）母親が探しているのを伝え聞いて、「天下の顔よしと言われる人が、婿になろうとおっしゃっている」と言ったところ、長者が、喜んで、「婿に取ろう」と言ってきて、良い日を選び結婚の約束をした。その日の夜になって、婚礼の着物などを人から借りて、月は明るかったが、（婿の）顔が見えないようにごまかし、博徒どもも大勢連れて行けば、（たくさんの従者を引き連れた）立派な身分の人のように思われて、迎える長者たちも満足した。

さて、夜の間だけ通っていたが、日中も共に住まう時期を迎えた。さてどうしたものかと考えを巡らせて、博徒の一人が、長者の家の天井裏に上がって、二人が眠っている真上を、ひしひしと踏み鳴らし、いかめしくも恐ろしげな声を発して、「天下の顔よしよ」と呼んだ。家の者らが、何の声だと聞きうろたえた。婿も、たいへんおびえて、「私のことを、世間では、天下の顔よしと言っていると聞く。どのような用か」と言うと、（鬼が）三度まで呼ぶので、返事をした。「なぜ返事をした」と言うので、「思わず、答えてしまった」と言った。鬼が言うことには、「この家の娘は、わしのものとして三年になるのに、おまえは、いかなる意図で、このように通い来るのか」と言う。（婿は）「そのようなこととも知らないで、通っておりました。ただただお助けください」と言えば、鬼が、「実に実に憎きことである。一言申して帰るとしよう。おまえ、命と容貌とどちらが惜しいか」と言う。　婿が、「何と答えたらいいでしょうか」と言うと、（長者である）舅も、姑も、「顔かたちなど問題ではありません。命だけでもありなさるならば（それで良い。）、『ただ顔かたちを（どうにでもしてください。）』とおっしゃ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いなさい」と言うので、（婿が）そのとおりに答えたところ、鬼が、「では、吸うぞ吸うぞ」と言うなり、婿は、顔を抱えて、「あら、あら」と叫び、転げ回った。鬼は天井を踏み鳴らして帰っていった。
さて「顔はどうなったか。見よう」と、明りを灯して、人々が見れば、（婿の顔は）目と鼻とが一カ所に取り付けられたような醜いありさまになっていた。婿は泣いて、「ただ、命をと申すべきであった。このような容貌で、世に生き残ったとて、どうなろう。こんな容貌になる前に、（皆様に私の）顔を一目お目にかけず、そもそも、このように恐ろしいものに取り憑かれた家へ婿入りしたことは、過ちだった」と嘆けば、舅が、気の毒に思って、「そのかわりとして、私の所有する宝を差し上げよう」と言って、丁重に扱ったので、（婿は）内心喜んでいる。「ここは場所が悪いのか」と、別に立派な家を建ててそこへ住まわせたので、（婿は）裕福に暮らすことができたという。

〔**重要単語**〕

○かしづく…①**大切に育てる。**　②大切に世話をする。
○ちぎり【契】…①**約束。前世からの約束。**　②**因縁。男女・夫婦の縁。**
○ひとびとし【人人し】…人並みである。いかにも一人前だ。
○いらふ【答ふ・応ふ】…**答える。**
○りゃうず【領ず】…①自分の所有にする。　②領有する。
○かたち【形・容・貌】…①物の形態。**姿。**　②**容貌。**　③美しい顔だち。　④ようす。ありさま。
○かこつ【託つ】…①関係のないことを無理に結びつける。　②**ぐちをこぼす。**
○いとほし…①**気の毒だ。**　②いやだ。　③かわいい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講
〈解答〉

問一　（1）C　（2）C　（8）B
問二　ア　B　イ　A　ウ　B　エ　B　オ　A
問三　D　**問四**　D　**問五**　D　**問六**　（7）D　（9）F

〈現代語訳〉

建礼門院が、大原にいらっしゃるということだけは（私は）お聞き申し上げているが、しかるべき人に了解を得ないではお訪ねする方法もなかったのを、（私は）女院を深く慕う心を導きとして、お会いしたくてやむにやまれずお訪ねして行くと、次第に近づくにつれて、山路のようすから、まず涙は先にたって言いようもなく（悲しいのに）、御庵室のありさま、御住居、事情全てが、（あまりにおいたわしく）全く見ることもできない。昔の（華やかな）御生活を見申し上げない人でさえ、一般の御事情が（実にひどく、大原での女院のお暮らしぶりを、）どうして並みひと通りのことだと思えるだろうか。まして（私のように、女院の昔の御生活を見ている者には）、夢とも現実とも言いようのないことである。秋深い山おろしの風が、近くの梢に響きあい、筧の水の音、鹿の声、虫の音など、（山里の秋のさびしさは、）どこでも同じはずだが、（私には大原の秋が）この上ない悲しさである。かつて宮中で女院御所に春の錦を裁ち重ねたような美しい着物を着てお仕えしていた女房たちは、六十余人もいたけれども、（今は顔を）見忘れるほどに衰えた墨染めの尼姿をして、わずかに三、四人ほどお仕えしておられる。その人たちにも、「なんともまあ」とだけ、私も先方も言っただけで、むせぶほどの涙があふれて、全く言葉も続けられない。

今が夢か、昔が夢かと迷われて、どう思ってみても、現実世界のこととは考えられないことだ
かつて宮中で仰ぎ見た女院を、現在、こうした深い山奥で拝するのは、悲しいことである

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

花の美しさや、月の光にたとえても、その一つだけに（たとえたので）は（その例が）不十分だったほどお美しかった女院のお姿が、今は人違いかと迷われるくらいであり、こういうことを目に見ながら、（私は）何の思い出もない都へ、それではどうして帰るのだろうと、（われながら）疎ましくつらい。

女院を山深くお訪ねして、そこに残しておいた自分の心よ、そのまま出家して（女院のお側〔＝大原〕に）住むための導きとなっておくれ

〔重要単語〕

○しるべ【導・知る辺】…①**導き**。案内すること。②知り合い。

○わりなし【理なし】…①**道理に合わない**。**無理**である。②たえがたい。つらい。③しかたがない。④ひととおりでない。⑤格別すぐれている。

○いふかたなし【言ふ方無し】…**言いようがない**。

○うつつ【現】…①生きている状態。②**現実**。

○ためし【例】…①**例**。先例。②話の種。③手本。

○くものうへ【雲の上】…①天上。高い空。②**宮中**。**内裏**（だいり）。

○あく【飽く】…①**満足する**。②あきあきする。

○あらぬ＋体言…①**他の**。**別の**。②不都合な。

○こころうし【心憂し】…①**つらい**。②**いやだ**。

○やがて…①**そのまま**。②**すぐに**。③ほかならぬ。④そのうち。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講
〔解答〕

問一　1　**問二**　3　**問三**　5　**問四**　2　**問五**　4　**問六**　3
問七　1　**問八**　1　**問九**　差し上げましょう（八字）
問十　（イ）1　（ロ）1　（ハ）1　（ニ）2　**問十一**　3

〔現代語訳〕

八幡別当頼清の遠い親類で、永秀法師という者がいた。家は貧しくて、風流心があった。夜となく昼となく、笛を吹くよりほかのことはなかった。（その笛の音の）やかましさに耐えられない隣の家が、次第に立ち去った後には、（周りに住む）人もいなくなってしまったが、全く気にしなかった。いくら貧しくても、落ちぶれた（者のするような卑しい）振る舞いなどはしなかったので、そうはいっても（貧しくても）やはり人が軽蔑することはなかった。頼清が（この永秀法師のことを）聞き、同情して使いの者をやって、「どうして何もおっしゃらないのですか。（私は）こうして（八幡の別当をして）いますので、縁もゆかりもない人でさえ、何かにつけてご依頼がございますのに。（私を）よそよそしくお思いくださいますな。頼りにするようなときは、遠慮なくおっしゃってください」と言わせたところ、「何ともまあ、恐縮いたします。数年来申し上げたいと思いながら、わが身の卑しさを思い、一方では恐縮し、一方では遠慮して（日を）過ごしてまいりました。（実は）切にお願い申し上げたいことがございます。すぐに参上して申し上げるつもりです」と言う。「何事であろうか、つまらない同情をして、面倒なことでも言い掛けられるのだろうか」と思うが、「彼の生活程度では、どれほどのことがあろうか」と高をくくって過ごすうちに、ある（日の）夕暮れ近くに、（永秀が）やって来た。すぐに面会して、「何のご用ですか」などと言う。「浅くない望みがありますのを、思いまして過ごしておりましたところ、先日のお言葉を喜んで、ためらわず参上しました」と言う。「（これは）疑いなく、領地などを望むのに違いないようだ」と思って、望みを尋ねると、「筑紫にあなたの領地が多くございますから、（そちらの）漢竹の笛で、よい出来のものを一つお取り寄せになっていただきたいのです。これが、私にとって最高の望みで

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ございますが、（私のような）卑しい身には手に入れるのが難しいものでございまして、長年入手できません」と言う。

意外なことで、たいそうしみじみと思われて、「（それは）たいそうたやすいことです。早速探し求めて、差し上げましょう。そのほか、ご入用であるようなものはございませんか。月日をお送りなさるような（日常生活にかかわる）ことも困っているようですが、そのようなことも、どうしてお引き受けしないことがありましょうか」と言うと、「お気持ちはありがたく存じます。しかし、そうしたことに関しては何の不足もございません。二月か三月に、このようにひとえの着物を一枚用意したので、十月までは、（それ以上）全く望むこともございません。また、朝夕の食べ物は、成り行きにまかせて、どうにかこうにか過ごしております」と言う。

「なるほど、風流人であることよ」と、（頼清は）しみじみとめったにない（すばらしい）ことに思われて、笛を急いで探し求めて（永秀に）送った。

〈重要単語〉

○すく【好く】…①**好色である**。②**風流である**。

○かしかまし…**やかましい**。うるさい。※「かしがまし」とも。

○やうやう…①**だんだん**。しだいに。②**かろうじて**。やっと。

○さすがに…**そうはいってもやはり**。そうはいうものの。

○うとし【疎し】…①**親しくない**。②よく知らない。③無関心だ。

○かしこまる【畏まる】…①**恐れ慎む**。恐縮する。②謝罪する。

○としごろ…長年。**数年来**。※「つきごろ…数か月、ひごろ…数日」もセットで覚える。

○あやし…①**不思議だ**。②**見苦しい**。③**身分が低い**。

○よしなし【由無し】…①**理由がない**。②**手段がない**。③関係がない。④無益である。⑤**つまらない**。

○うるさし【煩し】…①**わずらわしい**。②いやみだ。③立派だ。

○さうなし【左右無し】…①**どうとも決まらない**。②言うまでもない。**ためらわない**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○まうく…①**準備する。**　②持つ。　③利益を得る。

○あはれなり…①**しみじみと〜だ。**　②気の毒だ。　③**趣深い。**　④かわいい。

○やすし【易し】…**簡単である。**

○げに【実に】…①現実に。　②**本当に。**

○すきもの【好き者】…①**風流な人。**　②**好色な人。**

○ありがたし【有り難し】…①**めったにない。**　②（めったにないほど）すぐれている。　③**生きながらえにくい。**

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講

〔解答〕

問一　３　**問二**　５　**問三**　３　**問四**　お待ち申し上げていましたけれど（十五字）

問五　出家の儀、　**問六**　４

〔現代語訳〕

こうしているうちに、だんだんと過ぎてゆく歳月なので、箱王も十七歳になった。九月上旬の頃、別当が、おっしゃったことには、「箱王殿、今年の授戒では法師におなりなさい。童の姿で、衣装なども見苦しく都にお上りになったら、差し障りがあります。法師におなりになったらよいでしょう」と言って、多くの僧たちにこのことをお知らせになった。いよいよ明日、法師にしようとするので、箱王は、心の中で思ったことには、「これは、どうしたらいいだろうか。明けても暮れても、ただ（敵の）祐経のことばかり考えている。たとえ法師になっても、学問・勤行の時も思い出し、ああ、元服して十郎殿とご一緒申し上げて、敵を討てばよかったのにとつらいことに思ったならば、かえって罪業となってしまうだろう。ただ一途に思い切って願を遂げよう。不甲斐なくも髪を剃られてしまっては、千度百度悔やんでもどうしようもないだろう。なにはともあれ、十郎殿と相談して、どのようにでも決心しよう」と、箱王はただ一人、泣く泣く箱根の山を出て、一晩中かけて、曾我の里へと下って行った。

十郎の所に行って、呼び出して会った。十郎は箱王を見て、「どうして、今、何をしにいらっしゃったのか」と言ったので、箱王が、泣きながら申し上げたことは、「いよいよ明日、法師になることになりましたので、どのようにしてもご相談申し上げて、なんとでも取り決めるために（山を）下りました」と語ったので、十郎は、「私もそのように聞いたので、（山に）登ってご様子を見たいと思ったのだが、かえって見ていられないだろうと思って、決心できず、ただ一人で泣いていた所に、嬉しくもいらっしゃった」と言って、袖を合わせて泣いた。

箱王は、涙をこらえて、「出家のことは、母のお望みでございますから、そのことを思って長年過ごしてきました。先年、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

鎌倉殿〔＝頼朝〕が、御二所詣での時、敵の左衛門尉を一目見たときから、片時もその姿を忘れることはありませんでした。経を読み仏道修行をしていても、その姿を思い出すと心も上の空になって修行の心もおろそかになり、食事をする時も、その心さえ起きてくると、胸がふさがり心は乱れて山海の珍味もその味がわかりません。それにつけても、父上のことばかり恋しく思われ、たとえ法師になりましても、この悪念がなくならなければ、むしろかえって父上のためにも自分のためにも罪業となってしまうように思われます。明日、法師になることになっていますので、（兄上は）きっと山に登ってこられるでしょうとお待ち申し上げていましたけれど、そんなこともございませんでしたので、あれこれとご相談申し上げようと、誰にも知らせず深山の中をただ一人で下ってまいります道中も、峰に登る時は父の恩の高いことを思い出し、谷へ下る時には母の徳が深いことを嘆き、むやみに涙が流れて止まりませんでした。漢の国の申鳴が七歳で父の後を訪ねて南蛮へ行った思い、非赤山が九歳で契丹の国へ赴いた悲しみも、自分のことと思われ、袂も袖もすっかり濡れて下ってまいりました」と語ったので、十郎は聞き終わらないうちに（箱王と）声を合わせて泣いてしまった。

〔**重要単語**〕

○のぼる【上る・登る・昇る】…①**地方から都へ行く**。②**宮中へ参内する**。貴人のもとに参上する。③高いところへ行く。④官位・官職が高くなる。

○よもすがら…**一晩中**。↕ひねもす…朝から晩まで。一日中。

○なかなか…①**かえって**。②なまじっか。

○そぞろなり…①何という理由もない。②**関係がない**。③**むやみやたらである**。④心が落ち着かない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講
〔解答〕

問一　４　**問二**　３　**問三**　５　**問四**　１　**問五**　２　**問六**　目が覚め
問七　３　**問八**　４　**問九**　２　**問十**　５　**問十一**　４
問十二　(イ) ４　(ロ) ２　(ハ) １　(ニ) ２

〔現代語訳〕

敦敏の少将の子である、佐理の大弐は、天下の書道の名人。（大宰大弐の）任期が終わって都に上りなさった時に、伊予の国の手前にある港で、天気がひどく荒れ、海上がしけて、風が恐ろしく吹きなどするが、少しよくなって出発しようとなさると、また同じように（天気が悪く）なった。このようにばかりしては何日も過ぎるので、とても不思議にお思いになって、（占い人に命じて）占いなさると、「神の御祟りだ」とだけ言うが、そのような〔＝祟りを受けるような〕心当たりもない。どういうことであろうかと、恐れなさって（寝た、その夜の）夢にお見えになったことには、非常に上品な様子をした男がいらっしゃって、「このように天候が荒れて、何日もの間ここで過ごしなさるのは、私がすることでございます。どこの神社にも（神社の名をしるした）額がかかっているのに、私のもとにはないのがよくないので、（額を）かけようと思いますが、普通の（書家の）筆跡で書かせるようなことが悪うございますので、あなたにお書かせ申し上げようと思って、この機会でなくてはいつがあろうか（、いや二度と機会はない）と思って、お留め申し上げているのです」とおっしゃるので、「（あなたの名は）何と申しますか」とお尋ね申し上げなさると、「この浦の三島にいる翁でございます」とおっしゃるので、夢の中でも非常にお謹しみ申し上げると思いなさるが、目が覚めなさって、また（謹んで額を書こうと決めたことは）言うまでもない。

そうして、伊予へ渡りなさる時は、何日もの間荒れた天候とも思われないくらい、うららかに静かになって、伊予の方へ追い風が吹いて、飛ぶように参り着きなさった。湯を何度も浴び、しっかりと心身の汚れを清め清浄になって、正装である束帯姿になって、すぐに神の御前で額を書きなさる。神官たちを呼び出しなさって（額を社殿に）打ち付けさせなど、きちんとき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まり通りにしてお帰りになると、全く恐れることなくて、（他の者たちの乗る）下々の船にいたるまで、無事に都に上りなさった。自分がすることを世間でほめたたえるだけでも楽しいことであるが、まして神の御心にそこまでほしいと思いなさったとかいうことは、（佐理は）どんなに得意にお思いなさっただろう。

〔重要単語〕

○なべて…①**全て**。②**ふつう**。

○手…①**筆跡**。②所作。③**腕前**。④**方法**。⑤**負傷**。⑥手。

○おどろく【**驚く**】…①**はっと気づく**。②**目が覚める**。

○さらにもいはず【**更にも言はず**】…**いまさら言うまでもない**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講
〔解答〕

問一　⑴　B　⑶　A　⑸　D　⑺　B　**問二**　B
問三　E　**問四**　死別はあってほしくない　**問五**　E

〔現代語訳〕

尼君も起き上がって、「心残りもないこの身ではございますが、出家しづらく思いましたことは、ただこのように御前に参上しお目にかかりますことが（出家しましては）できなくなってしまいますようなことを、残念に思いましてためらっておりましたけれど、受戒しましたご利益で生き返りまして、こうしてお越しになられるお姿を拝見いたしましたので、今はもう阿弥陀仏のお迎えも邪念なくお待ちすることができそうでございます」などと申し上げて、弱々しそうに泣く。（源氏の君は）「このところ治りそうにない容態でいらっしゃるのを、気が気でなく心配していましたが、このように世を捨てた尼姿になっていらっしゃるので、本当に悲しく残念です。長生きをして、（私が）もっと位が高くなる姿なども見届けてください。そのうえで（極楽浄土の）上品上生にも差し支えなく生まれ変わりなさるがよい。この世に少しでも未練が残るのはよくないことと聞きます」などと、涙ぐんでおっしゃる。

出来の悪い子でさえ、乳母のような可愛がるのが当然の人はあきれるほど出来の良い子と思い込むものなのに、まして（申し分のない君を育てたことは）たいそう晴れがましく、親しくお側にお仕え申し上げた自分の身までも大切にもったいなく思われるようなので、むやみに涙を流している。乳母の子供たちはじつに見苦しいと思って、「捨ててしまったこの世に未練があるかのように、自分から泣き顔になってご覧に入れていらっしゃる」と、つつき合って目配せしている。

源氏の君はたいそう気の毒にお思いになって、「幼かったときに、可愛がってくれるはずの人たちが亡くなってしまわれた後、（私を）育ててくれる人はたくさんいたようだったけれども、心から愛し親しむという点ではあなたにまさる人はないと思われました。大人になってからは、きまりもあることなので朝に晩にとはお目にかかることができず、思うようにお訪ね申し上げる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ことはないけれど、やはり長く会わないときは心細く思われるので、避けられない別れ（＝死別）はあってほしくないと思うのです」などと親しくお話しになって、涙をお拭いになった袖の香も、あたり一面に薫り満ちるので、「なるほど（源氏の君と乳母は）実に思えば、世間並みではない因縁なのだよ」と、尼君を非難がましく見ていた子供たちもみな涙にくれるのだった。

〔重要単語〕

○くちをし【口惜し】…①**残念だ**。②**つまらない**。③卑しい。
○しるし【徴・験】…①**前兆**。②霊験。**ききめ**。
　【著し】…①**はっきりしている**。②予想どおりだ。
　【印・証・標】…①目印。②証拠。③合図。
○おこたる【怠る】…①なまける。②**病気がよくなる**。
○ものす【物す】…①ある。いる。②いろいろな動詞の代わりに用いる。
○やすし【安し】…①**心が穏やかである**。②安っぽい。
　【易し】…**簡単だ**。
○さはる【障る】…**さまたげられる**。さしつかえる。
○おもだたし【面立たし】…**名誉だ**。晴れがましい。
○かたじけなし…①**恥ずかしい**。②**恐れ多い**。
○すずろなり【漫ろなり】…①**なんとなく〜だ**。②**むやみやたらである**。③思いがけないさま。④何の関係もないさま。
○いはけなし…**子供っぽい**。※「いとけなし」も同意語。
○あまた【数多】…**たくさん**。※「ここら」「そこら」も同意語。
○むつぶ【睦ぶ】…親しくする。**仲よくする**。
○またなし【又無し】…**またとない**。二つとない。
○とぶらふ【訪ふ】…①訪れる。見舞う。②尋ね求める。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○さらぬ【然らぬ】…**そうでない。**

【避らぬ】…**避けられない。**　※さらぬ別れ＝死別

○ところせし【所狭し】…①場所が狭い。②**窮屈だ。**③**堂々としている。**

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講

〔解答〕

問一　ａ　２　　ｂ　５　**問二**　３　**問三**　２　**問四**　４　**問五**　１　**問六**　３・４

問七　風流心を深くして、常に修練を怠らずに年月を過ごせばよい。（二十八文字）

〔現代語訳〕

家隆は、四十歳を過ぎて、初めて歌人としての声望を得た。その歳になるまでにも多くの歌を詠んだけれども、評判になったのは、四十歳を過ぎてからであった。頓阿は、六十歳を過ぎて、この歌道で声望を得た。このように、昔の（歌道の）先輩たちも、（歌を）学び始めた時から評判になったわけではない。稽古も、風流心も、長い年月修練を積んで（初めて）、声望が得られるのである。

（しかし）当代の人は、今なお、歌なら百、二百首詠んだくらいで、すぐに定家、家隆の歌を真似ようと思っておりますのは、滑稽なことである。定家も「行きもしないで遠方に至ることはない」と書いている。（遠い）関東、九州の方へは、何日もかけてようやく行き着くことができるのに、思い立ったらすぐに一気に行けるように思うようなものだなどと（書いている）。ひたすら、風流心を深めて、毎日の修行を怠らず、まずはのびのびと滑らかに詠みつけていたならば、自然と意図せず面白い境地に行き着くであろう。

ただし、後京極摂政殿は、三十七歳でお亡くなりになったが、生まれつきの名人でいらっしゃって、優れた歌々をお詠みになった。もし八十歳、九十歳の高齢まで生きていらっしゃったならば、さらにどれほど多くの秀でた歌々をお詠みになったであろうかと（私は）申し上げました。宮内卿（＝後鳥羽院女房宮内卿）は、二十歳にならずに亡くなったので、どれほどの間も稽古や修行を積むことはできなかったであろうが、（歌人として）評判になったのは生まれつきの名人であったからである。生まれつき優れている場合には、悟りを求めようと初めて思ったときに、すでに仏としての悟りが完成している（というのと同じことな）ので、修行を必要としないのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（しかし）そうでない（＝生まれつきの名人でない）者は、ひたすら修行を怠らずに励んで年月を送れば、ついには自ら会得し真理を悟るときが来るに違いない。まったく、風流心以上に大切な宝も肝心なこともないのである。上代でも、風流な人々は、『古今和歌集』をめぐる歌道の秘事（の習得）も許され、勅撰和歌集にも収められました。真の風流心さえあれば、どうして真理を悟る時がないことがあろうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講

〔解答〕

問一　ハ　**問二**　(A)ロ　(B)ニ　(C)ハ　(D)ホ

問三　イ　**問四**　例　**問五**　イ　**問六**　ハ

問七　たくらみをしたのには違いあるまい。　**問八**　柴売と見えし人（七字）

問九　ホ　**問十**　イ・ヘ

〔現代語訳〕

むかし、都の町外れから、賀茂川の岸伝いに、北山へ帰る老人がいる。折しも、十二月二十八日の夕暮れで、世間は正月祝いの準備を急ぎ、心慌ただしい今日も、御堂参りの帰り道の道ばたに生えている芝草に、紙包みが見えたのを拾い上げると、「小判三両」と書き付けがある。どんな人が、大晦日の支払いをすます心づもりにした金であろうかと、前後を見たが、人の行き来もなく、遠くの松の陰に、柴売と見えた人が休むのに追いついて、「そなたはこれを落としなさらぬか。」と言うと、「確かに私は、落としたけれども、そなたの手に入るからには、そなたの物。」と言う。「これはたいそう、迷惑な申されようである。たとえこの持ち主がないといっても、取っては帰るまい。まして持ち主のいる金を、取って帰ることができようか。」と、その者に渡すと、拾った者に返した。投げてやると、放りつけ、しばらくこの言い争いは終わる事がない。のちには黒木売り・牛使いが、立ち止まって、「今の世の中には例のない事だ。」と、二人の心のありようを感心した。

いよいよお互いに道理を主張して、この小判は収まり所がなく、とかくこの言い争いは、下々で終わりにくく、二人は京都の町奉行へ出て、以上の事々を申し上げると、当番の役人たちがお聞きになって、「前代未聞の事、これは都の今聖人であろう。」と、この事をお取り次ぎ申し上げなさる折しも、奉行は体調がお悪くて、前後に京中の医者たちが詰めていらっしゃった。その時（奉行は）代理の家老職をお呼びになって、智恵試しにこの裁きを命じなさったので、（家老は）ここを大事と考えて、その拾った三両の小判を出させ、奉行の小判三両を合わせて六両を取り混ぜ、三所に置いて、「まず、落とした者に二両渡し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

て一両の損である。また、拾った者が二両取れば、これも一両の損である。奉行の金も一両損失である。二人とも（席を）立て」と、申しつけなさったところ、誰もが賢明な裁きだとこれを感心し、この事を（奉行の）お耳に入れると、いっこうに同意なさらず、「おまえたちの心の付け所は、違っている。この二人がこっそり相談して、このように取りはからった作り事である。その理由は、拾った者が、金の持ち主と言い争いをせず、捨て方は色々あったのに、ここに出た事が、第一の聞き所である。正直者と都に顔を見知らせて、のちのち人をだますためのたくらみをしたのには違いあるまい。その二人を呼び返せ。」と、再び、御前に呼び出しなさり、以上の事々を言い渡しなさり、「ありのままに白状申さぬ時には、拷問（する）。」と、厳しく取り調べなさると、山家の者は驚いて、「あの者に頼まれて、何の考えもなく言い含めます通りに、落とし手になり、言い争いしました」と申し上げる。「それでは、悪事は拾い手のたくらみである。一見すれば、五十歳にもなって、無益な考えは、死罪もするべきであるが、自分の身の上だけで、（まだ）誰にも迷惑をかけていない事なので、都の外までも所払いにしよう。」また、頼まれた者は、末永く住んでいる鞍馬に近い麓の町を、追い払いなさったということである。

〔重要単語〕

○こころあて【心当て】…①心の中であれこれとおしはかること。**あて推量**。②**心づもり**。

○けしき【気色】…①自然のようす。②趣。③**態度**。**顔つき**。④**意向**。⑤**機嫌**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第一講　『大和物語』（歌物語）

〔解説〕

①　「**陸奥**」の読みは「**みちのく**」。今の東北地方のあたり。よって、正解はイ。

②　平安時代の「**歌物語**」は、『**伊勢→大和→平中**』の成立順とセットで作品名も覚える。よって、正解はイ→オ→ア。

③　イの「**末**（すゑ）」は「**和歌の下の句**」のこと。他は全て「和歌の上の句」。よって、正解はイ。

④　「になし」は漢字で「**二無し**」。二つとないこと。よって、正解はウ。

〔解答〕

①　イ　②　イ→オ→ア　③　イ　④　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二講　『無名草子』（物語評論）

〔**解説**〕

①　『**発心集**』の作者は**鴨長明**。よって、正解はオ。鴨長明の他の知っておくべき作品は『方丈記』と『無名抄』。『方丈記』は「三大随筆」の一つ。

「**三大随筆**」とは、『**枕草子**』（＝**清少納言**）・『**方丈記**』（＝**鴨長明**）・『**徒然草**』（＝**吉田兼好**）。

②　「**かたほ**」（＝**不十分だ。未熟だ**）の反対語は「**まほ**」（＝十分だ。まともだ）。よって、正解はア。

ちなみにオの「**かたは**」は不十分という意味の**同意語**。

③　**紫式部**は、中宮**彰子**に仕えた女房。よって、正解はエ。ちなみに**清少納言**は、中宮**定子**に仕えた女房である。

④　**定子**の父親は**道隆**。よって、正解はイ。ちなみに**彰子**の父親は**道長**である。

〔**解答**〕

①　オ　②　ア　③　エ　④　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第三講　『宇治拾遺物語』（説話）

〈解説〉

① 「**かしづく**」の意味は「**大切に育てる・**大切に世話をする」。よって、正解はエ。

② 「通ふ」は「**通い婚**」という結婚形態の制度がわかっていれば、「**男性が女性のもとへ通う**」とわかる。

③ 「**契り**」には「**男女・夫婦関係の縁**」という意味があり、「その縁を結ぶ＝夫婦関係になる」という意味。

〈解答〉

① エ　② ア　③ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第四講　『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）

〈解説〉

① ウ「御髪とく」は「**御髪おろす**」のひっかけ。「御髪おろす」であれば、「剃髪する」＝「出家する」の意味となる。他の選択肢は全て「出家する」の意味。

② 「**おこなふ**」は「**仏道修行をする・勤行する**」という意味で使われる。

③ 「様（を）変ふ」＝「出家する」の意味。

④ 「**やがて**」は「**すぐに**」・「**そのまま**」の意味の重要単語。

〈解答〉

① ア・イ・エ・オ　② ア　③ ２　④ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第五講　『発心集』（仏教説話）

〔解説〕

① 鴨長明の代表三作品『発心集』（説話）・『方丈記』（随筆）・『無名抄』（歌論書）は覚えておくこと。

② 漢字で【疎し】で覚える。

③ 同じく漢字で【煩し】。

〔解答〕

① イ　② イ　③ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第六講　『曾我物語』（軍記物語）

〔解説〕

①「睦月（むつき）・如月（きさらぎ）・弥生（やよひ）・卯月（うづき）・皐月（さつき）・水無月（みなづき）・文月（ふ（み）づき）・葉月（はづき）・長月（ながつき）・神無月（かんなづき）・霜月（しもつき）・師走（しはす）」を覚えること。

②「なかなか」＝「かえって」の意味。よって、正解はC。

③「袖を濡らす」は「涙で袖を濡らす」意から「泣く」。よって、正解はア。

※「袖の雫」、「袖の露」＝袖にかかる涙。「袖を絞る」＝涙に濡れた袖を絞る。涙をひどく流すこと。

〔解答〕

①　イ　②　C　③　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第七講　『大鏡』（歴史物語）

〈解説〉

①『大鏡』は**藤原道長**の栄華を**批判的**に語っている歴史物語である。よって、正解はウ。

②『大鏡』は**平安**時代に成立した**歴史物語**。歴史物語は他に、『**栄花物語**』（栄華物語）『**今鏡**』『**水鏡**』『**増鏡**』がある。ちなみに、「紀伝体」とは歴史書の記述形式の一つで、各個人の伝記を連ねて一代の歴史を構成する形式。『大鏡』『今鏡』は紀伝体。「編年体」は、年月を追って叙述する形式で、『栄花物語』『水鏡』『増鏡』は編年体。

③「**そこ**」は人称代名詞で「**あなた**」。場所を示す「そこ」という意味もあるが、入試問題に出題されたら、まずは人称代名詞を疑うほうが良い。

〈解答〉

①ウ　②ア１　イ４　ウ１　③ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第八講　『源氏物語』（作り物語）

〔解説〕

① 「しるし」の意味からアの「**霊験**」か、ウの「**証拠**」。「なむ」の識別で、上がサ行下二段動詞「見す」の未然形か連用形。**未然形なら他者願望の終助詞、連用形なら強意＋推量の助動詞**になるが、どちらにせよ、ウの「嘆く」の意味はとれない。よって、正解はア。ちなみに「なむ」は他者願望の終助詞で、上の「見せ」が未然形だったということである。

② 「おこたる」＝「病気がよくなる」。よって、正解はイ。

③ 「いとけなし」＝「幼い」。よって、正解はロ。

〔解答〕

①　ア　②　イ　③　ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第九講　『正徹物語』（歌論書）

〔解説〕

① 『新古今和歌集』は後鳥羽院の勅命により、藤原定家などが撰進。院＝上皇。

② 藤原俊成が編纂したのは『千載和歌集』。よって、正解はオ。

③ 在原業平は六歌仙の一人。よって、同じ六歌仙の小野小町が正解。

〔解答〕

① a　エ　　b　オ　　② オ　　③ ホ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十講　『本朝桜陰比事』（近世小説）

〔解説〕

①　「けしき」の意味で、ア「顔つき」とイ「気持ち」に絞る。あとは「らむ」の識別。**u段**に付いているので、**現在推量**の「らむ」。よって、「～いるだろうか」という訳出のアが正解。

②　４『曾根崎心中』（浄瑠璃）は**近松門左衛門**の作。１～３は浮世草子。

〔解答〕

①　ア　　②　４

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。